

松島町雄島周辺海底採集板碑の報告(3)

著者	新野 一浩, 七海 雅人
号	47
ページ	57-144
発行年	2015-12-25
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00000503/

松島町雄島周辺海底採集板碑の報告(三)

松島板碑研究会 (新野 一浩・七海 雅人)

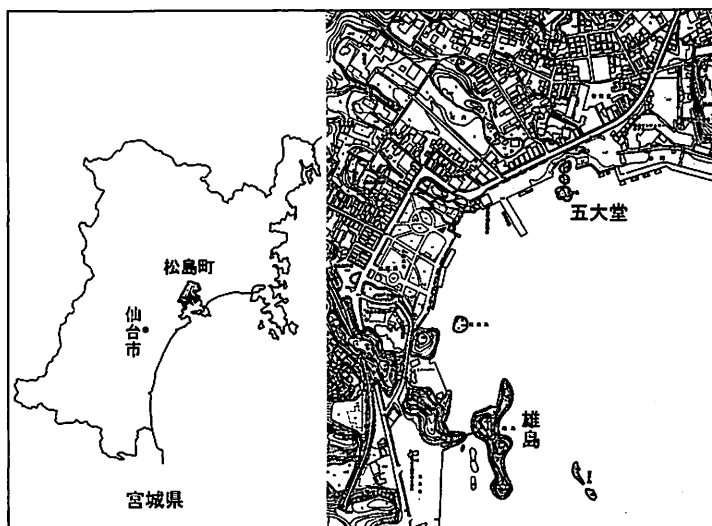


図1 雄島位置図

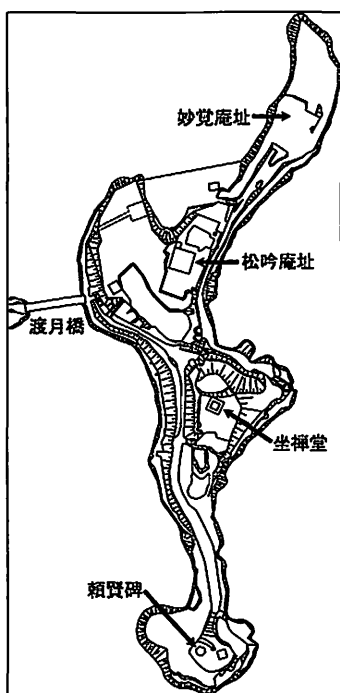


図2 雄島地図 S=1/2500

一 調査の概要と成果

はじめに

雄島は松島湾の北西最奥部に位置する、南北約二三〇m、東西約五〇mの南北に細長い島である(図1・2)。板碑の表採作業は二〇〇六年から始まり二〇一五年まで継続して行われている。今回は二〇〇八年の調査報告になる。

二〇〇八年の板碑採集作業は雄島中央東側から実施した。回を重ねるごとに南側に調査範囲を移し、南端部東側まで行った。最終日は潮が余り引かず、前年と同じ島中央西側の調査を行った。

島東側は西側と比較して波（主に観光船による）が立ち潮の流れも速い。満潮時は海水が直接島の崖に届くが、干潮時には崩れ落ちた岩塊付近（K-L-15-18）に小さな砂浜が出現し、そこから北側の海中には大きな凝灰岩礫、コンクリート製擬木が転がっていた。南側は砂礫から次第に泥の堆積へと変わって行き、南端部の手前、内側にえぐり込んでいる箇所（K-8-11）は潮の流れも緩やかで、厚い泥の堆積となる。またL-M-9-12区域は立ち入るのが躊躇されるほど深く、調査が進まなかった。ここより南側のN-5-7区域は波・潮流とも強く、海中に大きな凝灰岩、安山岩礫が転がっていた。

前年の調査で表採した板碑の出土地点を図上に落とすと、島内になつてしまふ齟齬が生じていた。当年も同様の事が起きたので、雄島外郭線（図3青線）の測量を実施し、島内図と合わせて使用する事とした。

作業日数は九日、のべ作業員数は四二名と前年より少ない。表採資料点数も前年の七割強であった。

なお、表採作業に至る経緯、調査方法、処理・保管等に関しては『東北文化研究所紀要第四四号』二〇一二年発行（以後東文研四四号とする）を参照していただきたい。

1. 二〇〇八年に採集した板碑

当年調査区域の板碑のあり方は大きく二つに分ける事ができる。西側干潟の様に砂泥中に埋没しているものと、全体に貝や海藻、その他海洋生物が多数付着している状態のものである。前者は西側のように、コンクリート片、ビニール、ガラス瓶等の現代物と共に埋もれているものが多い。また同じ砂泥中から近世・近現代の瓦が時折出土した。また後者の場合、潮の流れの速い東側区域では容易に移動する様で、崩落した岩塊付近の小さな砂浜では、全て拾い上げたにも関わらず次回調査時にまた落ちていくという状況であった。

この年の表採点数は四三九点、内接合例が一件あり、実質四三八点となる。図3に出土位置を点で示した。尺度の都合上、乱雑となる為Noを付していない。一地点が一点とは限らず複数点出土した地点もある。

種子または銘文等の一部が確認出来たものは一三四点あった。種子の種類と点数は図4の通り。種子の一部が欠失してはいるが明確に確認出来、欠失した部分に涅槃点や空点等が付くことによって別の種子となり得るものを「系」とした。種子全体が風化等により明確に確認出来ないものに「？」を付した。

種子は「？」「系」の付く資料を除き、二四種確認出来、上位三種は「バン」三三点、「カ」一二点、「ラン」七点である。ただし「系」「？」を含めると、「ラ」が九点になり「ラン」を上回る。

当年の調査で初検出となった種子は二種で、1つは毘沙門天を表す「バイ」である。雄島島内に一例あるが、海底表採調査では初と

なる。もう一種は六地藏菩薩中の宝処地藏を表す「ダ」である。さらに阿弥陀三尊に地藏菩薩を表す「カ」を合わせた特殊な板碑も出土した。

なお、二〇〇六・二〇〇七年に合わせて五点確認した龍樹菩薩を

表す「ナ」は可能性がある資料も含め六点出土した。同じく二〇〇七年初検出の羅刹天を表す「ル」は一点出土した。

以下種子や銘文のあるものの一部に解説をおこないたい。

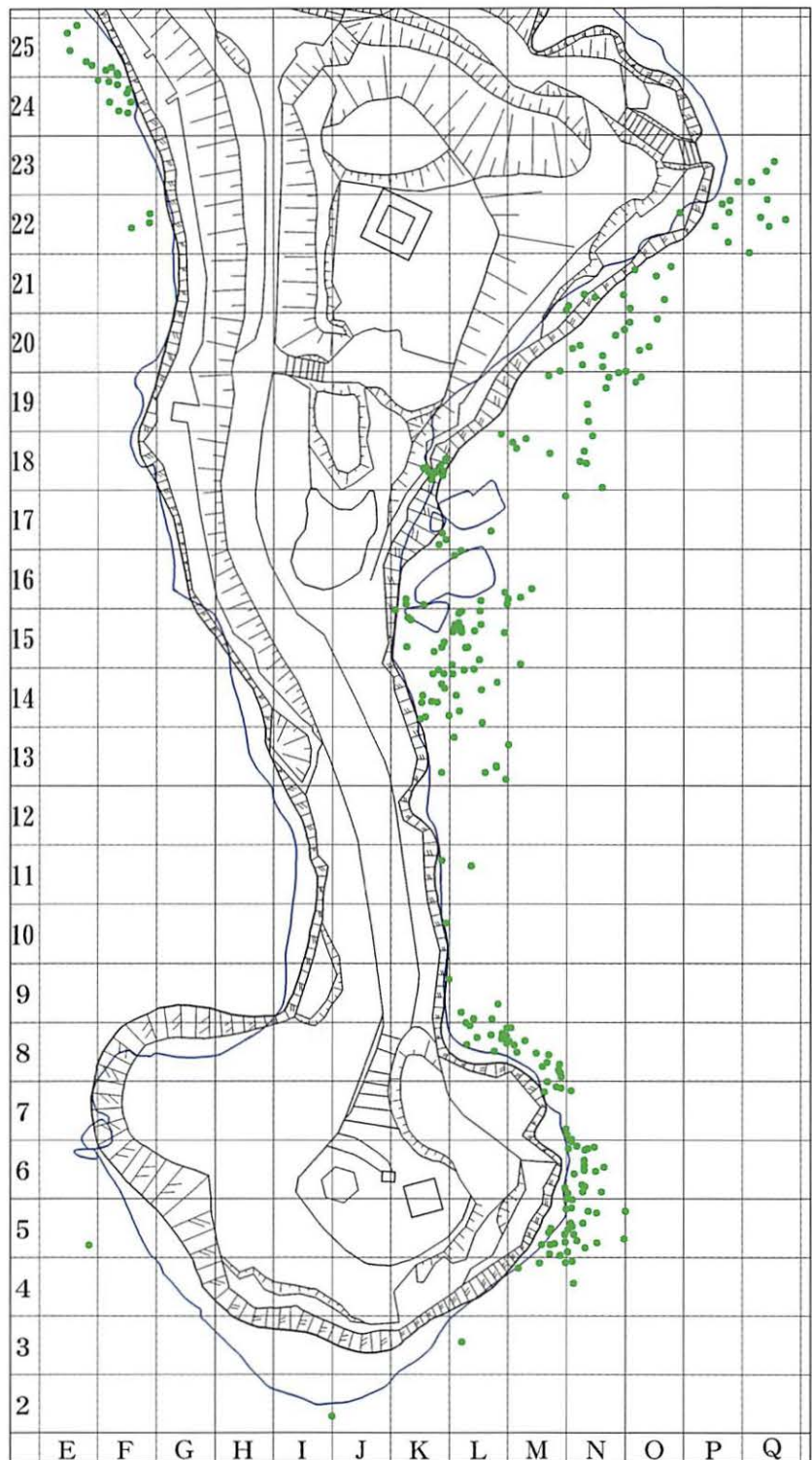


図3 板碑出土地点 S=1/700

ナ?	1	ア	4
バ	5	ア系	1
バ?	1	アン	1
バイ	1	イー ¹	2
バイ ^{*2}	1	ウーン	3
バン	33	カ	12
バン系	8	カ系	1
バン?	4	カ?	2
マ	1	カーン	1
マン	1	カン	3
ラ	5	カク	1
ラ系	1	キリーク	3
ラ?	3	サ	5
ラン	7	サク	3
ル	1	ダ	1
多尊	1	タラーク	3
不明	7	ナ	5

図4 種子一覧

* 1 : 護国地蔵 * 2 : 毘沙門天

・ 銘文のある板碑

① Na. 851

大型碑の下部片で、右側は節理面により欠失している。弘安九年（二二八六）は海底表採資料中、二〇一五年現在においても最も古い。全体が波に洗われ明確にわからないが、碑面に擦痕が確認できる事から研磨されていたと考えられる。下部片ながら長さ五五cm、厚さ八・五cmあまりで、相当大きな碑であったと思われる。

② Na. 886

上部に種子の一部と思われる彫りが認められ、その下方に二行に渡り文字が刻まれていたようである。碑面中央の行は刺突によってほとんど消されているが、左の行は「八月」と「時正」らしき文字

が確認出来る。種子と銘文を消しているが銘文は新たに刻まれず、種子に関しては上部を欠失しているため不明である。

③ Na. 898

欠失のない資料で、上部はやや細りながら圭頭、下部は節理面を利用した左側が尖る脚となる。主尊を「カ」とし、碑面右側に被供養者、碑面中心に年号、その下に「施主□白」と刻む。□は擦れて消えているが、容易に「敬」と推測できる。

④ Na. 927

上部に碑の幅一杯に種子を箱彫りで刻む。箱彫りで種子を刻む例は二〇一五年現在でもこの資料のみである。種子下、碑面中央に年号を刻むが、「年」の次一文字を空け左右に「大才」、「丁亥」と刻む。願文は碑面左右に二行に分けられ、内容から先祖供養の為の造立であることがわかる。

⑤ Na. 928

石材は安山岩と思われる。上部に大きく種子を刻み、その下に年号を刻む。碑の上部は半円状に、下部は平坦に加工している。

⑥ Na. 929

右側と上部を欠失している。種子は残存部から「ア」系とわかる。願文は一行のみ残存している。種子を再現すると右側は三分の二弱程欠失していると考えられるので、右に願文の一行目と中心に年号が刻まれていた可能性がある。願文の下から二文字目は「菩提」の略字である。

⑦ Na. 1042

下部左側の破片で、敬白の「白」の一字のみ残存する。碑面中心に刻まれる年号下部に、横に刻まれる形態とすれば、年号の一部も認められないので幅は半分以上が欠失していると考えられる。ここの事から当碑は幅六〇cm以上の大型碑になると推測できる。

⑧ Na. 1108

種子は「キリク」の異字体で、蓮台と月輪をもつ。二〇一五年現在でも月輪をもつ資料は当資料のみである。

種子はイー点が涅槃点の中心を通り蓮台まで延びる。ラー点は切り接ぎで別にするのではなく、四画目が右側に湾曲しラー点の形態をとっている。このような異字体は特異なもので、デザイン性を重視した形態と言えようか。

蓮台は側面観で内区がわずかに見え、縦方向に刻まれた小さな楕円形の彫りとして表現されている。蓮弁は中央が長方形を呈し、左右に大四弁、小三弁づつ表現されている。

願文からは「智性禪門」の百ヶ日供養の為に製作されたとわかる。「出火宅」の文言は珍しく、「火宅」は法華経の譬喩品に説かれた、現世の事であるから、煩惱にまみれた現世を離れ極楽浄土へ行けますようにとの願いが込められている。

・特殊主尊の板碑

⑨ Na. 1008

玄昌石に近い石材を用いて作られた板碑で、上下を欠失している。中心に地藏菩薩を表す「カ」、そのやや斜め上の左右に「サ」

と「サク」が刻まれている。欠失した上部に「キリク」が刻まれた、阿弥陀三尊形式に「カ」を組み合わせた形態と推測した。阿弥陀三尊に付随して種子が刻まれる例は石巻市（旧河北町）三輪田の全隆寺の摩崖に阿弥陀三尊に「バン」を組み合わせて刻んだ例が知られている（1）。

観応年間に著された『都のつと』に、雄島を記した文中に「来迎の三尊ならひに地藏菩薩をすへたてまつれり」の一文がある。この板碑は祀られた阿弥陀三尊と地藏菩薩を刻むことによって、浄土への願いを込め、造立された板碑ではないだろうか。

・金で書かれた種子

⑩ Na. 1097

扁平な角礫状で、角が丸く碑面の一部がなめらかになっている事から、もと川原石ではないかと推定する。欠損部はなく、短躯体である。上部に漆と金で種子を表している。種子上部が消えかけており、明確に読む事はできないが、地藏菩薩を示す「カ」と思われる。碑面は一切刻むことをしていない。下地に漆を用いていることから、金泥ではなく金箔貼りではないかと思われる。

・種子の彫刻外郭線を引かれた板碑

⑪ Na. 963

上部片で、碑面一杯に仰月点を持つ「バン」の外郭線が引かれている。図版拓本では分かり辛いので、写真左に外郭線内を白抜きにした図を示した。

外郭線のみで彫られていないということは、この資料が何らかの

理由によって製作が途中で中断した事を示している。全体が残っていないので別の箇所に種子が刻まれていた可能性もあるが、雄島島内で種子が刻まれていた可能性を示す資料と言える。板碑の製作過程を知る上で貴重な資料である。

また種子の大きさと碑の残存長を考えると、当資料は長さ一・五m以上の大型碑と思われる。

・接合した板碑

No. 981と984は約三・四m離れて出土し、接合した資料である。出土位置は図5に示した。表採された地点周辺の海底は深い泥で、落下または投棄されてから割れ、移動したとは考えにくく、二つに割られた後投棄されたと理解したい。

・円礫の板碑

⑫ No. 815

扁平円礫である川原石に種子「カーン」を刻む。昨年も同様の資料が出土しており、種子も同じである。碑面に擦痕が認められるが、全体を研磨しているかは不明である。

なお、昨年三〇cm以下の板碑が一二点出土しているが、当年はこの資料一点のみである。

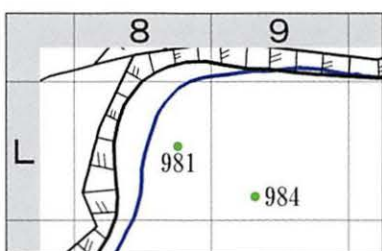


図5 No.981・984の出土位置関係

・初見の種子

⑬ No. 1016

上部片で、種子は六地藏の宝処地藏を表す「ダ」である。「ダ」を主尊とした資料は管見の限り県内初と思われる。

・井内石以外の石材

⑭ No. 713・979

銘文のある板碑中で先述したNo. 928は安山岩を用いていたが、同様に井内石以外を用いた資料が二点確認されている。

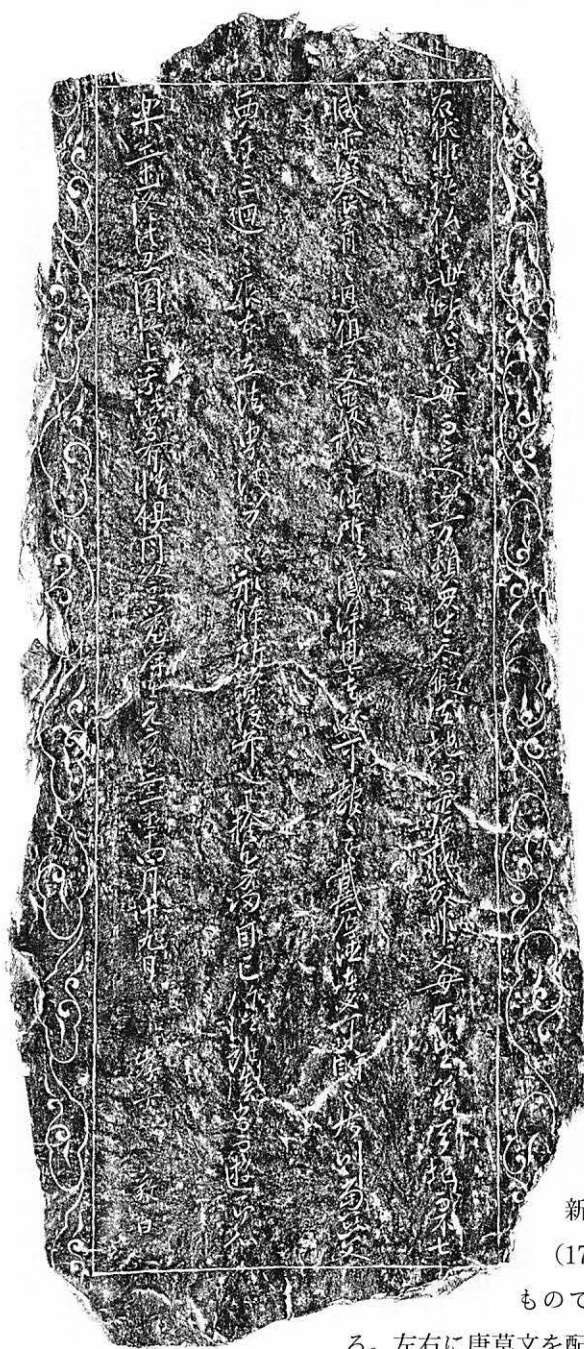
No. 713の石材は安山岩ではないかと思われるが不明である。板状であるが碑面・背面とも調整を受けた痕跡が認められない。節理で生じた板状の石材を用いたものであろうか。

No. 979は安山岩を用いている。大割りしてできた菱形状の破片で、碑面は横方向にゆるく内湾している。

両資料とも種子の彫りが浅く、確認し辛い。

(一)『北上川下流域のいしぶみ』(宮城県桃生郡河北地区教育委員会、一九九四年) 九一頁。

(新野 一浩)



右伏惟諸仏出世皆從父母而受身万類衆生尽假天地而覆載放非父母不生無天地而不亡
咸霑養育之恩俱受覆載之德所以感染恩在必可報之戴原德在必可醉之居則當慈父
西去三廻之辰在立法界沈身之形軀所資授并迅捨凡身歸自己俱離陰界而遊即心
樂土直證法忍圓悟上我法界有情俱同登覺岸在 元亨二季四月十九日 孝子 敬白

2015年6月16日、瑞巖寺鐘楼下の洞窟内において、元亨4年（1324）4月19日の紀年銘をもつ新しい板碑を発見した。延享5年（1748）の百万遍供養塔に転用されたもので、上部を欠失し種子は不明である。

左右に唐草文を配し、四行に渡り銘文を刻む。銘文の前半は『洞山良价禅師悟道因縁』を参考に作られたと考えられ、非常に興味深い。高さ141.5cm、幅60.0cm、厚さ7.5cm。銘文釈文の左右に配した唐草文は、拓本から文様の一単位を模写し図案化した。

（新野 一浩）

拓本 12.5%

二 二〇〇八年採集板碑・資料編

1. 一覧表

雄島海底板碑については、採集作業のたびに新野一浩が計測・碑面観察・写真撮影をおこない、一覧表を作成している。資料編では、まず二〇〇八年に採集した資料四三七点の基本情報(一覧表)を提示する。

採集した資料は、その順番に番号を付し、高さ・幅・厚さの法量(寸法)を計測した。備考欄には、銘文や加工に関する所見を記載した。石材について、特に記載のないものは粘板岩(石巻方面で産出される「井内石」)である。ガイド欄は、前掲図3における出土地点を示す。採集作業日欄には、最大干潮時刻(この時刻の前後合わせて三時間程度が採集作業の可能時間帯である)とその時の海面の高さ、作業員名を記載した。

2. 写真・拓本・釈文・データ表

つぎに、新野が作成した一覧表の中から種子や銘文が認められる資料をピックアップし、写真・拓本・データ表・釈文を提示する。

釈文は左右に実線を配して、その内側に示した。種子、偈頌、紀年銘、願文などの文字のみを示し、枠線・莊嚴などは示さなかった。梵字(悉曇)は片仮名で表記し、種子として使われている場合は()内に記した。ただし、碑面に種子のみしか認められない資料や、数

文字程度の願文の一部のみしか認められない資料については、釈文の提示を省略した。銘文が判読できない箇所について、内容から明らかに文字の存在が推定できる場合、文字数に応じて□で示した。また、その文字が推定可能な場合は傍注で示した。

データ表には観察表の番号(漢数字による表記)、年代、保存状況、石材、法量(寸法)、種子法量(寸法)、種子調法、形状、備考記事掲げた。法量の数値はすべてセンチメートルである。種子法量については、①縦および横の数値は原則として種子となる梵字の縦軸を垂直にした向きを基準に計算した、②彫幅は梵字を構成する画の中で最も幅の広い部分を計算した、③彫深は現状で最も深い部分を計算した(種子が欠損していて計測が難しい場合、——を示し数値を記入しなかったものがある)。種子調法については、種子の彫り方の断面形態と彫刻技法を示した。形状については、石材の形状や加工技法、碑面の調整、破損状況などを示した。加工技法については、先端の尖った工具で板碑の輪郭を造り出している技法を「敲打」、石材を割り取って板碑の形状を造り出している技法を「割り矧ぎ」と表現した。備考欄には、野線などの特記記事を示した。

データ表の作成については、『仙台市史 特別編5 板碑』(仙台市、一九九八年)を参照した。資料の整理作業には、一條紗綾、岡谷康成、乙戸崇、蒲倉綾子、菊地航平、倉田祐介、今野翔平、今野暲、田中大基、七海雅人、新野一浩、紅祐莉恵、星由香里、本田りか、松田陽子、松本尚也、横田竜巳がたった。

(七海 雅人)

2008年採集板碑一覧表

No.	種子	法量 (mm)	備考	ガイド
20080423	干潮11:23	海水面-7cm	七海雅人 高橋潤 瀬戸秀一 福田慶二郎 高橋周子 新野一浩	
704	—	243×154×22		P-22
705	—	314×160×28	碑面擦痕	P-22
706	ラン	264×156×28		P-22
707	—	250×125×20	川原石/碑面擦痕	P-23
708	—	388×130×22	上端欠失	P-23
709	—	497×154×85	角棒状	O-21
710	—	690×230×100	碑面擦痕	O-21
711	—	352×143×20	完形であるが種子なし	Q-22
712	—	343×145×28	表・背面擦痕	Q-22
713	キリーク	245×418×34	安山岩?	Q-23
714	—	188×130×30	表・背面擦痕	Q-23
715	—	750×365×115		Q-23
716	—	213×162×28	表・背面擦痕	Q-23
717	—	422×195×23	表・背面擦痕	Q-23
718	—	315×115×32	碑面に削り痕	Q-23
719	—	230×208×40	表・背面擦痕	Q-23
720	カ	466×149×26	種子は削り+刺突/碑面削り痕・擦痕	O-21
721	—	375×144×35		Q-22
722	—	394×100×22	完形か?/碑面擦痕	Q-22
723	バン	325×147×42	右上端欠失/碑面一部研磨	Q-22
724	—	210×155×23		P-22
725	—	200×81×20		P-22
726	ラ	322×127×31	下端欠失/碑面擦痕	P-22
727	ラ?	265×88×21	右上部片/種子ラ系統	P-22
728	—	414×270×43	碑面研磨?	P-22
729	—	160×65×29		Q-22
730	カ	255×155×28	上部片	Q-22
731	—	278×117×36		Q-22
732	バン系	177×168×30	上部片	Q-22
733	—	600×275×113		Q-22
734	バン	474×230×28	碑面研磨?背面に削り痕?/左側面に破砕痕が二か所	Q-22
735	バン	197×105×21	上部片もしくは完形	P-22
736	カ	467×134×52	種子左側一部剥離欠失	P-22
737	—	126×120×14	石質玄晶石に近い	P-22
738	—	600×122×115	角棒状片	P-22
739	—	162×90×14		P-22
740	—	218×110×40		P-22
741	—	163×115×20		P-22
742	—	267×122×12	表・背面擦痕	P-22
743	—	266×130×19	表・背面擦痕	P-22
744	—	370×172×30	碑面擦痕	P-22
745	—	225×80×22	碑面削り痕・擦痕	P-22
746	—	283×242×50		P-22
747	—	322×235×27	碑面に線状痕/全体波により洗われ磨耗	O-20
748	—	180×122×40	川原石	O-20
749	—	605×285×62		O-20
750	—	149×126×18		O-20
751	サ	544×232×40	碑面風化?波により洗われ磨耗?	N-20
752	—	127×115×38	川原石/碑面研磨	N-20
753	カン	692×206×48	下部欠失/碑面擦痕/全体波に洗われ磨耗	O-21
754	—	483×91×70	角棒状/全体やや波に洗われ磨耗	O-21
755	—	610×226×73	上下部欠失	O-21
756	—	455×200×100		O-21
757	—	198×122×20	碑面擦痕	O-21
758	—	450×278×70		O-21
759	—	143×160×11		O-21
760	—	235×219×50		O-22
種子有: 12 文字のみ: 0 破片: 45 2008 計 12 0 45 合計 57 総数 237 8 509 合計 754 * Na 184・189・41・201・312・524・387・395・592・607は接合、Na201・206は同一個体として扱い、総数はNa数-6となる				
20080508	干潮11:36	海水面-8cm	高橋潤 福田慶二郎 高橋周子 新野一浩	
761	バン	413×165×24	全体波に洗われ磨耗	L-15
762	—	179×56×20	全体やや波に洗われ磨耗	L-15
763	—	183×133×33	全体波に洗われ磨耗	L-15
764	—	217×126×23	種子ラの可能性もある/全体波に洗われ磨耗	L-15

No.	種子	法量(mm)	備考	ガイド			
765	パン	365×200×30	下部欠失／全体波に洗われ磨耗／石質玄昌石に近い	L-15			
766	カ	265×200×20	下半欠失／全体波に洗われ磨耗／石質玄昌石に近い	L-14			
767	パン系	260×170×32	下部欠失／種子一部残存／石を横目にして使用	L-15			
768	バ	615×200×41	碑面削り痕／全体やや波に洗われ磨耗	L-15			
769	—	316×330×25	全体波に洗われ磨耗	L-14			
770	—	372×188×30	全体波に洗われ磨耗	L-15			
771	パン系	335×148×28	上端及び下部欠失／全体波に洗われ磨耗	L-15			
772	パン?	347×259×25	上部片／全体波に洗われ磨耗、種子不鮮明	L-15			
773	サク	465×267×18	全体波に洗われ磨耗／石質玄昌石に近い	L-15			
774	サ	370×191×26	碑面波に洗われ磨耗／石質玄昌石に近い	L-14			
775	—	312×305×18		L-14			
776	パン	290×202×38	上部片	L-14			
777	—	330×189×30		L-14			
778	—	140×97×19	砂質強い	L-13			
779	カ	782×262×49	貝によって孔のあいた材を使用／碑面波に洗われ磨耗	L-14			
780	ラ	454×187×47	全体波に洗われ磨耗	L-13			
781	—	187×132×15		L-13			
782	マン	463×204×35		M-13			
783	—	191×105×41	砂質強い	M-13			
784	ナ	569×197×33	下端欠失／背面波に洗われ磨耗	L-14			
785	—	107×98×18		L-14			
786	—	361×150×25	下端欠失／完形に近い	L-14			
787	—	420×175×29	全体波に洗われ磨耗	K-14			
788	—	165×79×30	川原石／左右両側面に擦痕	M-16			
789	パン系	320×125×28	残存する種子の形状からパンと思われる	M-16			
790	—	112×88×20		M-16			
791	—	260×110×30	碑面に文字がある可能性?／全体やや波に洗われ磨耗	M-16			
792	—	263×130×50	川原石／碑面に線?	L-16			
793	—	101×88×21		L-16			
794	ラン	182×142×23	下半欠失／全体波に洗われ磨耗	L-16			
795	—	183×134×19	全体波に洗われ磨耗	K-14			
796	ナ	276×173×34	全体波に洗われ磨耗	K-14			
797	—	320×133×25	上部欠失／全体波に洗われ磨耗	K-15			
798	イー	505×187×31		K-14			
799	パン	160×140×18	上部片／背面波に洗われ磨耗	L-14			
800	—	115×81×15	川原石／全体波に洗われ磨耗	L-14			
801	—	261×172×31		M-15			
802	—	488×290×50	碑面削り痕	L-15			
803	ナ	332×210×21	下半欠失／種子右下に擦痕	L-15			
804	バイ	390×181×17	左辺一部欠失／玄昌石に近い	L-15			
805	タラク	183×140×18	上部片	L-15			
806	カ	507×180×37	下端欠失／全体波に洗われ磨耗	L-15			
807	カ	497×170×33	碑面擦痕	L-15			
808	パン	280×165×30	下端欠失／種子彫り浅い	L-15			
809	—	138×115×20		L-15			
810	ラン	360×109×28		L-13			
811	—	160×146×16	全体波に洗われ磨耗／玄昌石に近い	L-13			
812	—	110×64×13	全体やや波に洗われ磨耗	L-13			
813	サ	265×140×34	上部片	L-13			
814	パン	315×143×18	種子彫り浅い／全体波に洗われ磨耗／玄昌石か	K-15			
815	カーン	264×140×31	川原石／碑面擦痕／やや波に洗われ磨耗／背面研磨?	L-15			
816	—	140×117×18	全体波に洗われ磨耗	L-15			
817	—	164×63×12		L-15			
818	ア	643×251×38	上端右上及び下端欠失／全体波に洗われ磨耗	K-15			
819	カ?	212×208×28	上部片／全体波に洗われ磨耗	K-14			
種子有: 31		文字のみ: 0	破片: 28				
2008 計 43		0	73	合計 116			
総数 268		8	537	合計 813			
* No. 184・189、41・201、312・524、387・395、592・607は接合、No.201・206は同一個体として扱い、総数はNa数-6となる							
20080511	干潮13:50	海面16cm	畠山篤雄 乙戸 崇	七海雅人 新野一浩	瀬戸秀一	福田慶二郎	高橋周子
820	—	331×54×25	全体やや波に洗われ磨耗				K-15
821	—	119×64×21					K-16
822	—	177×111×15	全体やや波に洗われ磨耗				K-16
823	—	241×177×19	全体やや波に洗われ磨耗				K-16
824	パン	361×134×32	左下部欠失／全体波に洗われ磨耗				K-16
825	—	313×98×19	全体やや波に洗われ磨耗				K-16
826	イー	459×180×30	全体波に洗われ磨耗				K-16
827	—	287×137×24	全体波に洗われ磨耗				K-17
828	—	122×82×15	全体やや波に洗われ磨耗				L-16

No.	種子	法量 (mm)	備考	ガイド
829	—	88×44×15		L-16
830	—	165×132×18		K-17
831	タラーク	452×169×32	全体波に洗われ磨耗	L-17
832	—	98×75×8		K-16
833	—	301×153×30	玄昌石に近い／全体波に洗われ磨耗	K-16
834	—	136×90×13		K-15
835	—	118×75×7	玄昌石に近い／全体波に洗われ磨耗	K-17
836	—	53×53×6	玄昌石に近い／全体波に洗われ磨耗	K-17
837	—	76×46×6	全体波に洗われ磨耗	K-17
838	—	74×33×6	玄昌石に近い／全体波に洗われ磨耗	K-17
839	—	51×37×4	玄昌石に近い／全体波に洗われ磨耗	K-17
840	—	64×26×5	全体波に洗われ磨耗	K-17
841	—	53×29×6	全体波に洗われ磨耗	K-17
842	—	120×53×16	全体波に洗われ磨耗	K-17
843	—	103×53×16	全体波に洗われ磨耗	K-17
844	—	130×115×20	全体波に洗われ磨耗	K-17
845	ア	470×207×34	下部欠失／全体波に洗われ磨耗	K-17
846	パン	235×273×45	上部片／全体波に洗われ磨耗	K-17
847	—	173×110×25	全体波に洗われ磨耗	K-17
848	—	124×80×10	全体波に洗われ磨耗	K-17
種子有: 5 文字のみ: 0 破片: 24 2008 計 48 0 97 合計 145 総数 273 8 561 合計 842				
* Na 184・189、41・201、312・524、387・395、592・607は接合、No.201・206は同一個体として扱い、総数はNa数-6となる				
20080522 干潮11時12分 海水面-8cm 高橋 潤 福田慶二郎 吉成恵美 高橋周子 新野一浩				
849	—	524×165×26	全体やや波に洗われ磨耗	L-18
850	—	52×44×7	全体波に洗われ磨耗	L-18
851	—	564×323×94	「弘安九季六月日／孝子／敬白」／碑面擦痕／全体やや波に洗われ磨耗	N-18
852	—	217×227×21		N-18
853	—	340×168×25	下部片	O-20
854	パン	265×119×20	仰月点あり／右上部片／全体波に洗われ磨耗	O-20
855	ウー	633×162×82	角棒状／下端欠失／碑面の一部研磨	N-20
856	バ	335×175×65	種子下に刺突状の加工痕／全体波に洗われ磨耗	M-18
857	—	357×153×34	碑面に削り痕／全体波に洗われ磨耗	M-18
858	—	192×137×45		M-18
859	ウー	341×179×22	上端及び下部欠失／碑面削り痕・擦痕／全体やや波に洗われ磨耗	N-18
860	—	305×171×17	全体波に洗われ磨耗	N-18
861	—	319×178×39	全体波に洗われ磨耗	N-18
862	—	275×185×39	碑面に擦痕／全体波に洗われ磨耗	M-19
863	—	157×134×22	全体やや波に洗われ磨耗	N-19
864	—	83×90×11	碑面削り痕	N-19
865	—	178×109×23	全体やや波に洗われ磨耗	N-20
866	—	175×94×15	全体やや波に洗われ磨耗	N-20
867	—	184×130×23	碑面擦痕／全体やや波に洗われ磨耗	N-21
868	カ	417×252×27	上左側欠失／背面に方形の割剥き痕？／全体波に洗われ磨耗	N-21
869	—	380×225×100	全体やや波に洗われ磨耗	M-21
870	—	520×216×75	碑面削り痕・研磨	M-21
871	—	200×98×24	全体やや波に洗われ磨耗	N-18
872	—	303×172×82		N-18
873	—	193×170×36	全体やや波に洗われ磨耗	N-18
874	—	334×182×50	全体やや波に洗われ磨耗	N-19
875	—	311×213×32	碑面削り痕／全体やや波に洗われ磨耗	N-19
876	—	458×270×62	全体波に洗われ磨耗	N-19
877	—	209×95×15	全体やや波に洗われ磨耗	O-19
878	—	360×110×50	碑面擦痕	O-20
879	—	130×110×10	全体波に洗われ磨耗	O-20
880	—	183×89×12	上半欠失／全体やや波に洗われ磨耗	O-20
881	—	240×65×20	全体波に洗われ磨耗	N-20
882	パン	518×150×60	空点と仰月点一体／全体やや波に洗われ磨耗	N-19
883	—	272×115×90	角棒状片／全体波に洗われ磨耗	M-18
884	—	382×136×33	上部欠失／全体やや波に洗われ磨耗	M-17
885	—	486×409×75	碑面一部研磨？／全体やや波に洗われ磨耗	N-18
886	—	662×176×58	文字残存。刺突で文字を消している「八月時正(カ)」／上部に葉研彫り風の削り残存、種子の一部か？／上部欠失	N-19
887	パン系	246×141×37	上部片／種子の一部残存／全体やや波に洗われ磨耗	N-19
888	—	414×240×103	下部片／全体やや波に洗われ磨耗	N-19
889	—	620×145×122	下部片／同一方向の擦痕が多く認められ、碑面・背面とも研磨	N-20
890	—	264×175×31	全体やや波に洗われ磨耗	N-20
891	—	177×116×31	碑面擦痕／全体やや波に洗われ磨耗	N-21
892	パン	105×77×13	上部片／全体やや波に洗われ磨耗	N-21

No.	種子	法量(mm)	備考	ガイド
893	—	387×186×90	碑面一部研磨?/全体やや波に洗われ磨耗	N-21
894	ラン	244×146×25	上部片/全体波に洗われ磨耗	N-20
895	—	355×138×95	全体やや波に洗われ磨耗	N-21
896	キリーク	221×194×30	種子上下・左側に2本1組の野線有り/種子異字体/刺突による成形痕/全体波に洗われ磨耗	N-21
897	—	288×141×12	上部欠失/全体波に洗われ磨耗	N-20
898	カ	655×190×23	「智蔵禪門 〇(敬) 文和二季三月廿一日施主 白」	E-5
種子有: 11 文字のみ: 2 破片: 37 2008 計 59 2 134 合計 195 総数 284 10 598 合計 892 * Na 184・189、41・201、312・524、387・395、592・607は接合、Na201・206は同一個体として扱い、総数はNa数-6となる				
200800605 干潮10時48分 海水面-7cm 高橋周子 吉成恵美 新野一浩				
899	—	114×105×11	全体やや波に洗われ磨耗	K-14
900	—	160×105×20	側面やや波に洗われ磨耗	K-13
901	バン系	382×221×29	上端欠失/全体やや波に洗われ磨耗	K-16
902	—	250×230×30	碑面擦痕	K-15
903	—	145×96×15	全体全体波に洗われ磨耗	K-14
904	バン系	216×174×26	上部片	L-11
905	—	262×207×15	碑面に擦痕/玄昌石に近い	L-11
906	—	200×190×15		L-11
907	—	170×128×25		L-11
908	—	180×140×40	下部片/中央右側に削り痕	L-11
909	—	210×90×20		L-11
910	—	130×147×17		L-11
911	バン	314×176×26	下部欠失/種子周囲のみ削り・研磨痕	K-14
912	—	205×105×27	全体波に洗われ磨耗	K-14
913	カク	326×240×41	上部片/種子上下に2本1組の野線	L-14
914	—	176×80×10		L-14
915	—	370×200×20		L-14
916	ラ?	279×121×19	上下端欠失/全体波に洗われ磨耗	K-14
917	—	400×130×30	中央に破砕痕/全体やや波に洗われ磨耗	K-14
918	カン	743×245×29	下部右側面剥離欠失	K-14
919	ラン	164×133×23	上部片	L-15
920	バン	410×75×45	下部欠失/碑面中央に研磨痕	L-15
921	—	230×140×30	全体やや波に洗われ磨耗	L-14
922	—	405×115×34	全体波に洗われ磨耗	L-15
923	—	180×50×10	全体やや波に洗われ磨耗	K-16
924	—	207×86×11		L-15
925	—	240×120×30	背面やや波に洗われ磨耗	L-15
926	—	292×96×37	全体波に洗われ磨耗	K-14
927	ア	810×160×80	種子箱彫り/下部左側欠失/碑面上部を中心に刺突痕、碑面研磨一部に擦痕/背面擦痕・研磨、やや波に洗われ磨耗 「右志者為過去聖雲 大才 弘安十年 二月廿六日 丁亥 成佛得道也」	L-3
928	ア	800×443×118	安山岩?/完形、上部右側一部欠失/碑面研磨/右側面下部・左側面中央に研磨痕/「正應三年六月廿日」	I-2
種子有: 10 文字のみ: 0 破片: 20 2008 計 69 2 154 合計 225 総数 294 10 618 合計 922 * Na 184・189、41・201、312・524、387・395、592・607は接合、Na201・206は同一個体として扱い、総数はNa数-6となる				
200800619 干潮10:25 海水面-2cm 高橋周子 新野一浩				
929	ア系	730×135×40	左側部分のみ残存/全体やや波に洗われ磨耗/「往生極楽大菩提也」	N-6
930	—	467×210×23	上部欠失/全体波に洗われ磨耗	N-6
931	ロ	550×216×48	下部欠失	N-6
932	—	301×163×25	全体やや波に洗われ磨耗	N-6
933	—	345×231×23	全体やや波に洗われ磨耗	N-6
934	ラン	443×170×30	完形/碑面に削り痕?	N-6
935	—	372×200×30	碑面に削り痕?刺突?痕/左右に破砕痕	N-6
936	—	206×125×11	碑面に削り痕?/全体波に洗われ磨耗	N-6
937	—	238×146×13	玄昌石に近い/全体やや波に洗われ磨耗	N-6
938	—	307×194×34	全体やや波に洗われ磨耗	N-7
939	—	350×225×20	全体波に洗われ磨耗	N-7
940	サ	49.8×198×46	下端左側欠失/全体波に洗われ磨耗	L-9
941	バン	417×165×25	下端欠失/全体波に洗われ磨耗	N-7
942	—	260×118×16	碑面上部に種子(ラ系?)の可能性/全体波に洗われ磨耗	M-7


No.	種子	法量 (mm)	備考	ガイド
943	—	160×203×20	全体やや波に洗われ磨耗	M-7
944	—	425×141×35	碑面擦痕／全体やや波に洗われ磨耗	M-7
945	ラ系	455×187×31	上部欠失／石質やや軟質で、薄く剥離しやすい／全体波に洗われ磨耗	M-8
946	—	270×210×36	全体波に洗われ磨耗	M-7
947	—	247×210×36	背面にコンクリート付着／全体やや波に洗われ磨耗	M-7
948	—	466×125×40	全体やや波に洗われ磨耗	N-7
949	カ	228×236×29	上部片	M-8
950	不明	319×178×32	上部片種子の残画有り	M-8
951	—	310×107×30	碑面剥離欠失／碑面左上部に研磨痕	M-8
952	カ系	810×237×93	上部欠失／碑面研磨	M-8
953	バン	620×211×53	種子彫り粗い／碑面研磨？／全体やや波に洗われ磨耗	M-8
種子有：10 文字のみ：0 破片：15 2008 計 79 2 169 合計 250 総数 304 10 633 合計 947 * Na 184・189、41・201、312・524、387・395、592・607は接合、Na201・206は同一個体として扱い、総数はNa数-6となる				
20080703 干潮10:03 海水面3cm 吉成恵美 高橋周子 新野一浩				
954	—	100×88×18		K-11
955	カ	421×169×58	背面波に洗われ磨耗	K-11
956	—	182×69×10	玄昌石に近い	K-11
957	バン	225×205×20	上部片／空点の位置下がる／全体やや波に洗われ磨耗	M-7
958	—	626×145×40	右側面削り痕／背面全体やや波に洗われ磨耗	M-8
959	—	215×185×45	碑面に削り痕・研磨痕／玄昌石に近い	M-8
960	—	183×120×14		M-8
961	バ	509×92×40	種子下10cmに擦痕／背面下部に研磨痕／下部欠失	M-8
962	—	277×101×27	全体波に洗われ磨耗	M-8
963	(バン)	520×320×60	碑面に浅い線刻で、バンの下得きをしている	M-8
964	—	310×207×25	碑面左上に削り痕？／左側面に古い破砕痕／全体波に洗われ磨耗	M-8
965	—	137×67×14		M-8
966	—	485×288×31	碑面削り痕	L-8
967	—	220×115×20	全体波に洗われ磨耗	L-8
968	—	555×243×45	碑面左上に刺突痕／上部及び下端欠失	M-8
969	マ	529×222×37	種子右下及び碑面下部に削り痕／全体やや波に洗われ磨耗	L-8
970	—	320×146×23		L-8
971	—	186×144×16		L-8
972	—	240×177×27	碑面下部に研磨痕	L-8
973	—	181×219×40	碑面研磨痕	L-9
974	バン	413×154×31	基部造りだし／上部左側欠失？	M-8
975	—	348×228×35	下部片／碑面左側に擦痕	M-8
976	サク	331×245×25	下半欠失／玄昌石に近い	L-8
977	—	230×153×18	左側面に擦痕2か所／全体やや波に洗われ磨耗	L-8
978	バ	477×255×36	種子上部に削り痕／右上部及び下部欠失	L-8
979	バン	355×234×54	安山岩？	L-8
980	—	330×146×50	下部片／全体やや波に洗われ磨耗	L-8
981	—	343×252×26	玄昌石に近い／全体やや波に洗われ磨耗／Na984と接合	L-8
982	—	275×260×27		L-8
983	—	180×145×18	玄昌石に近い／全体波に洗われ磨耗	L-9
984	バ	300×240×31	上部片／玄昌石に近い／Na981と接合	L-9
985	—	263×169×25	全体波に洗われ磨耗	K-9
986	—	345×155×30	全体波に洗われ磨耗	K-10
987	不明	296×140×21	種子下部残存、アまたはラ系／全体波に洗われ磨耗	K-10
988	—	46×30×5	碑面研磨	L-9
989	—	45×32×4		L-9
990	—	72×58×20		L-9
991	—	215×84×30		L-9
992	不明	171×87×23	種子ア系？／上部片／碑面右側削り痕	L-9
993	—	72×35×13		L-9
994	—	160×90×11	野線2本有り	L-9
995	—	62×58×10		L-9
996	—	118×98×13	取り上げた後、2枚に剥離	L-9
997	—	91×46×16		L-9
998	—	140×103×25		L-9
999	—	159×68×19	全体やや波に洗われ磨耗	L-9
1000	—	119×77×15		L-9
1001	—	107×177×15		L-9
1002	—	74×57×8		L-9
1003	—	73×111×22		L-9
1004	—	100×73×21		L-9

No	種子	法量 (mm)	備考	ガイド
種子有: 12	文字のみ:	0	破片: 38	
2008 計 91		2	207	
総数 316		10	671	合計 300 合計 997
* No.184・189、41・201、312・524、387・395、592・607、981・984は接合、No.201・206は同一個体として扱い、総数はNo数-7となる				
20080719	干潮10:16	海水面10cm	七海雅人 高橋周子	島山篤雄 新野一浩
1005	ー	365×200×40	全体波に洗われ磨耗	N-6
1006	サ	362×229×40	上部片	N-5
1007	ウーン	698×265×47	上端欠失/種子上部剥離欠失	N-5
1008	阿弥陀三尊 +カ	380×283×28	上部・下半欠失/背面に鑿痕/玄昌石に近い/やや波に洗われ磨耗	N-5
1009	ラ?	332×177×38	全体波に洗われる磨耗種子僅かに残る、特徴からラと思われる/完形	N-5
1010	アン	281×270×20	上部片/空・仰月点一体型/全体やや波に洗われ磨耗	M-5
1011	ー	220×145×27	全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1012	ー	245×278×25	全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1013	ー	328×193×31	下部片?	N-5
1014	ー	190×105×23	碑面ほぼ中央に削り痕・刺突痕/全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1015	ー	502×240×38	下部片/全体波に洗われ磨耗	N-5
1016	ダ	288×216×43	上部片/全体波に洗われ磨耗	M-5
1017	バン	511×138×32	完形/全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1018	ー	140×135×16	全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1019	バン	696×195×53	完形/全体やや波に洗われ磨耗	M-5
1020	ラ	387×145×21	全体波に洗われ磨耗	M-5
1021	バン系	498×190×35	上部欠失/種子下部残存/全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1022	ー	325×177×24	下部片?/全体波に洗われ磨耗	M-5
1023	バン	332×196×20	上部片/全体波に洗われ磨耗	M-5
1024	ー	196×196×23	全体波に洗われ磨耗	M-5
1025	ラ	353×179×35	下部欠失/全体波に洗われ磨耗	M-5
1026	ー	270×175×20	全体やや波に洗われ磨耗	M-5
1027	不明	331×181×44	上部片/種子周辺に研磨痕/玄昌石に近い/剥離しやすい	M-5
1028	ー	200×163×25		O-5
1029	ー	236×89×25	全体波に洗われ磨耗/コンクリート付着	N-5
1030	ー	316×116×33	全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1031	ー	268×143×27	全体波に洗われ磨耗	N-5
1032	バン	402×63×44	完形/全体やや波に洗われ磨耗	M-5
1033	ー	230×170×64	川原石/中央に研磨痕	M-5
1034	バ?	294×106×36	上部片/全体波に洗われ磨耗	M-5
1035	ー	265×61×22	全体波に洗われ磨耗	M-5
1036	ー	144×83×9	全体波に洗われ磨耗	M-5
1037	ー	380×142×25	全体波に洗われ磨耗	M-5
1038	ナ	305×233×27	上部片/全体波に洗われ磨耗	M-5
1039	ー	320×115×162	上部欠失/全体やや波に洗われ磨耗	M-5
1040	不明	362×106×34	剥離欠失の後に波に洗われ種子の一部残存	M-5
1041	ー	110×62×10		M-4
1042	ー	305×145×38	「白」の文字のみ残存	N-6
1043	ー	186×225×35	碑面右側に削り痕/全体やや波に洗われ磨耗	N-6
1044	ー	348×156×23	全体波に洗われ磨耗	N-6
1045	ー	100×132×16		N-5
1046	カ	452×280×53	上部片/玄昌石に近い/鉄分多い/全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1047	ー	190×133×60	川原石/上下端欠失	N-5
1048	ー	176×188×16	碑面上部に線刻?/背面左側に削り痕	N-5
1049	バン	229×200×26	上部片/玄昌石に近い/全体やや波に洗われ磨耗	M-4
1050	ー	258×228×55		M-4
1051	バイ	215×154×36	上部片/背面波に洗われ磨耗	M-4
1052	ー	230×190×23	上部に線刻?/全体やや波に洗われ磨耗	M-4
1053	バン	274×175×40	下部欠失/波に洗われ種子薄くなっているが、特徴からバンと思われる	M-4
1054	ー	198×145×35	全体やや波に洗われ磨耗	M-5
1055	ー	210×134×27	全体やや波に洗われ磨耗	N-4
1056	バン	165×105×15	上部片/全体波に洗われ磨耗	N-6
1057	ー	164×125×25	砂質強い/全体やや波に洗われ磨耗	N-6
1058	ー	183×48×20	全体やや波に洗われ磨耗	N-6
1059	ー	135×165×30	全体やや波に洗われ磨耗	N-6
1060	ー	186×74×20		N-6
1061	バン?	365×109×48	上部片/種子右上部のみ残存、特徴から仰月点のあるバンと思われる/全体波に洗われ磨耗	N-6
1062	タラーク	185×125×24	上部片/種子一部残存、特徴からタラークと思われる/全体波に洗われ磨耗	N-5
1063	ー	257×170×28	碑面左側に刺突痕/背面左上に削り痕・刺突痕/全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1064	ラン	165×118×24	上部片/種子右上に削り痕	N-5
1065	ー	180×127×16	全体波に洗われ磨耗	N-5

№	種子	法量(mm)	備考	ガイド
1066	—	147×115×18	全体やや波に洗われ磨耗	N-5
1067	—	267×160×18	碑面右上に擦痕	N-5
1068	不明	130×127×23	上部片／種子の一部残存、ラの可能性もある／全体やや波に洗われ磨耗	M-5
1069	—	188×80×17	全体やや波に洗われ磨耗	M-5
1070	バン	279×182×36	完形？／全体やや波に洗われ磨耗	N-4
1071	不明	171×153×20	上部片／種子一部残存／全体波に洗われ磨耗	N-6
1072	バン	400×201×31	完形／全体波に洗われ磨耗	N-6
1073	—	215×120×18	碑面上部に2本1組の罫線有り／全体やや波に洗われ磨耗	M-6
種子有：29 文字のみ：1 破片：39 2008 計 120 3 246 合計 369 総数 345 11 710 合計 1066 * №184・189、41・201、312・524、387・395、592・607、981・984は接合、№201・206は同一個体として扱い、総数は№数-7となる				
20080801	干潮9：51	海水面16cm	七海雅人 松本俊樹 高橋周子 吉成恵美 新野一浩	
1074	バン	421×130×37	種子彫り浅い／完形	E-25
1075	—	198×122×15		E-25
1076	ラ	357×148×39	上端欠失？	E-25
1077	—	267×114×19	玄昌石に近い	E-25
1078	—	160×122×24	碑面研磨？	E-25
1079	—	370×300×38	下部片／2本1組の横罫線1、縦罫線5本有り	E-25
1080	—	160×126×13	川原石の剥離片／№1098と同一個体？	F-24
1081	—	300×103×15	玄昌石に近い	F-25
1082	—	275×93×20		F-25
1083	—	182×103×20	碑面削り痕／横方向の断面がレンズ状／扁平な川原石もしくは全面研磨をおこなっている可能性	F-25
1084	—	105×103×15		F-25
1085	—	194×90×25		F-25
1086	—	270×70×55		F-25
1087	—	292×133×39		F-25
1088	バン	236×157×11	上部片／種子下に削り痕／背面左側に縦罫線とそれにそって削り痕有り	F-24
1089	バ	402×176×30	下部欠失	F-24
1090	—	120×91×12		F-24
1091	—	303×105×24		F-25
1092	—	603×262×35	碑面上及び下部に削り痕、左上部に研磨痕	F-25
1093	—	139×124×31		F-24
1094	—	255×144×32	碑面の一部研磨？／玄昌石に近い	F-24
1095	—	93×49×10		F-24
1096	バン系	120×80×15	右上部片／残存する種子の形状からバンと思われる	F-24
1097	カ？	263×191×51	角礫状の川原石／漆に金箔で種子を表している、残存状況からカと思われる／完形	F-24
1098	—	101×72×7	川原石の剥離片／№1080と同一個体？	F-24
1099	—	158×45×19	碑面上部に削り痕	F-24
1100	—	208×158×15		F-24
1101	—	350×158×38	砂質強い石材（粘板岩）	F-24
1102	—	475×211×35		F-24
1103	ナ？	213×155×21	種子彫り浅く不明瞭、特徴からナと思われる／下半欠失	F-24
1104	—	209×130×27	碑面右下に削り痕／扁平な川原石／完形だが種子見え	F-25
1105	サク	280×251×40	上部片	F-22
1106	ナ	368×197×37	種子右側に削り痕・研磨痕／下部欠失／石目横にして使用	F-22
1107	バン	518×200×45	上端・下部欠失	F-22
1108	キリーク	700×270×58	種子は月輪と蓮台を伴う／キリークは異字体、イー点が涅槃点の中心を通りラ一点の切り継ぎなく四画目から左上側へ延びる／願文・年号の下に横罫線1本左側に縦罫線1本 「右塔婆志趣者為百々日 施主 暦応四年 六月廿七日 敬白 智性禅門出火宅法界利益故也」	F-22
1109	—	90×107×28		F-24
1110	—	163×105×10	玄昌石に近い	F-24
1111	—	131×98×20	右側に擦痕	F-24
1112	—	93×60×16		F-24
1113	—	150×86×18		F-24
1114	—	156×75×37	川原石片	F-24
1115	—	125×110×19		F-24
1116	—	161×100×16		F-24
1117	—	107×96×8	川原石剥片	F-24
1118	—	88×112×16		F-24
1119	—	87×30×9	玄昌石に近い	F-24
1120	—	80×28×7	玄昌石に近い	F-24
1121	—	80×65×9		F-24
1122	—	65×105×13		F-24

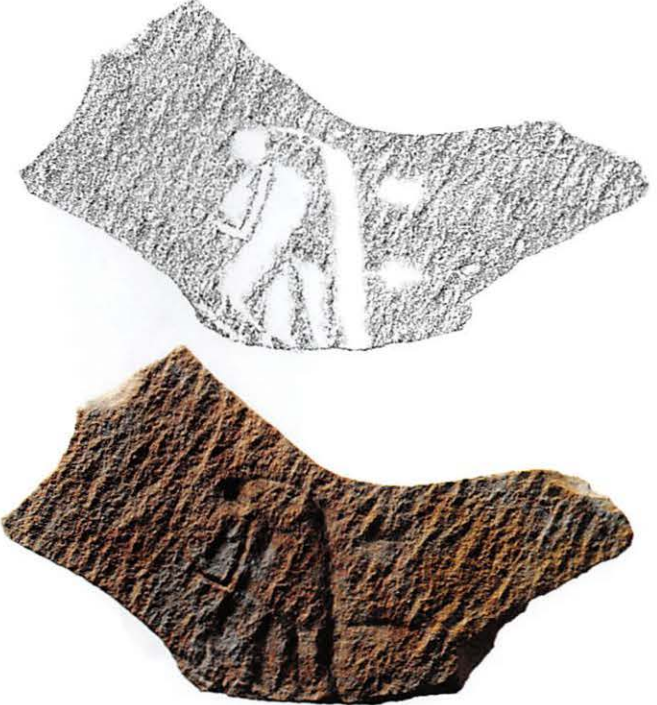
No	種 子	法 量 (mm)	備 考	ガイド
1123	—	80×35×8		F-24
1124	—	80×60×12		F-24
1125	—	110×85×10		F-24
1126	—	63×52×7		F-24
1127	—	89×67×7		F-24
1128	—	70×46×2	碑面研磨?	F-24
1129	—	94×87×8		F-24
1130	—	138×97×8	碑面研磨?	F-24
1131	—	86×31×9		F-24
1132	—	62×38×3		F-24
1133	—	43×40×8		F-24
1134	—	81×43×8		F-24
1135	—	113×80×14		F-24
1136	—	101×52×15		F-24
1137	—	130×45×20		F-24
1138	—	100×31×14		F-24
1139	—	45×32×16		F-24
1140	—	55×37×6		F-24
1141	—	75×34×9	下部に削り痕	F-24
種 子 有 : 11 文字のみ : 0 破片 : 57 2008 計 131 3 303 合計 437 総 数 356 11 767 合計 1134 * No 184・189、41・201、312・524、387・395、592・607、981・984は接合、No201・206は同一個体として扱い、総数はNo数-7となる				

番号	七〇六	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高二六・四	幅	一五・六
厚	二・八		
種子	ラン(金剛語菩薩)		
種子法量	縦三・九	横	一・八
彫幅	〇・七		
彫深	〇・一		
種子調法	葉研彫。		
形状	・頭部、下部欠損。		



写真・拓本 25%

番号	七二三	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高二四・五	幅	四一・八
厚	三・四		
種子	キリーク(阿弥陀如来)		
種子法量	縦一四・七	横	一六・四
彫幅	二・七		
彫深	〇・一		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・種子部分のみの破片(種子法量は確認値)。本来の悉曇の数や配置は不明。		



写真・拓本 20%

番 号	七二〇	年 代	不 明
保 存 状 況	完 全	石 材	
法 量	高 四六・六 幅 一四・九 厚 二・六	粘板岩(井内石)	
種 子	力(地蔵菩薩)		
種 子 法 量	縦 六・七 横 三・八 彫幅 一・二 彫深 〇・二		
種 子 調 法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形 状	・頭部整形。 ・背面削り痕。 ・左側面剥離。 ・右側面調整。 ・碑面擦痕。		



写真・拓本 20%

番号	七二三	年代	不明
	保存状況		
一部破損	法量	高三・五	幅一四・七
厚四・二	種子法量	縦三・二	横一・八
膨幅〇・八	膨深〇・一	石材 粘板岩(井内石)	
種子調法			
葉研彫			
形状			
・頭部右側破損。・頭部左側面敲打。			
備考			
・種子法量は確認値。			

写真・拓本 25%

番 号	七二六	年 代	不 明	石 材	粘板岩 (井内石)	保 存 状 況	一 部 破 損	法 量	高 三・七 幅 一・二・七 厚 三・一	種 子	ラ (金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)	種 子 法 量	縦 三・八 横 一・八 彫幅 〇・九 彫深 〇・一	種 子 調 法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。	形 状	・ 頭部整形 (左側面敲打) ・ 下部破損 ・ 碑面擦痕。

写真・拓本 30%

番 号	七二七	年 代	不 明	石 材	粘板岩 (井内石)	保 存 状 況	一 部 破 損	法 量	高 二・六・五 幅 八・八 厚 二・一	種 子	ラ (金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩) ?	種 子 法 量	縦 一〇・二 横 三・七 彫幅 一・五 彫深 〇・一	種 子 調 法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。	形 状	・ 種子の一部分のみの破片 (種子法量は確認値、種子はラもしくはランか)。



写真・拓本 35%

番号	七三〇	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二・五	幅	一五・五
種子	力(地藏菩薩)	厚	二・八
種子法量	縦 四・六	横	三・九
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。	彫幅	〇・六
形状	・頭部左側破損。・下部破損。	彫深	〇・二




写真・拓本 25%

番号	七三一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一七・七	幅	一六・八
種子	パン(金剛界大日如来)	厚	三・〇
種子法量	縦 七・五	横	三・五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。	彫幅	〇・八
形状	・右側面上部敲打。・下部破損。	彫深	〇・一



写真・拓本 30%

番 号	七三四	年代	不明	石 材	粘板岩 (井内石)	保存状況	一部破損
	法 量						高 四七・四 幅 二三・〇 厚 二・八
種 子	パン (金剛界大日如来)						
種子法量	縦 九・七 横 四・二 彫幅 一・二 彫深 〇・一						
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。						
形 状	・頭部・基部整形。・頭部右側破損。・左側面二箇所破壊痕。 ・背面 平鑿による削り痕。						

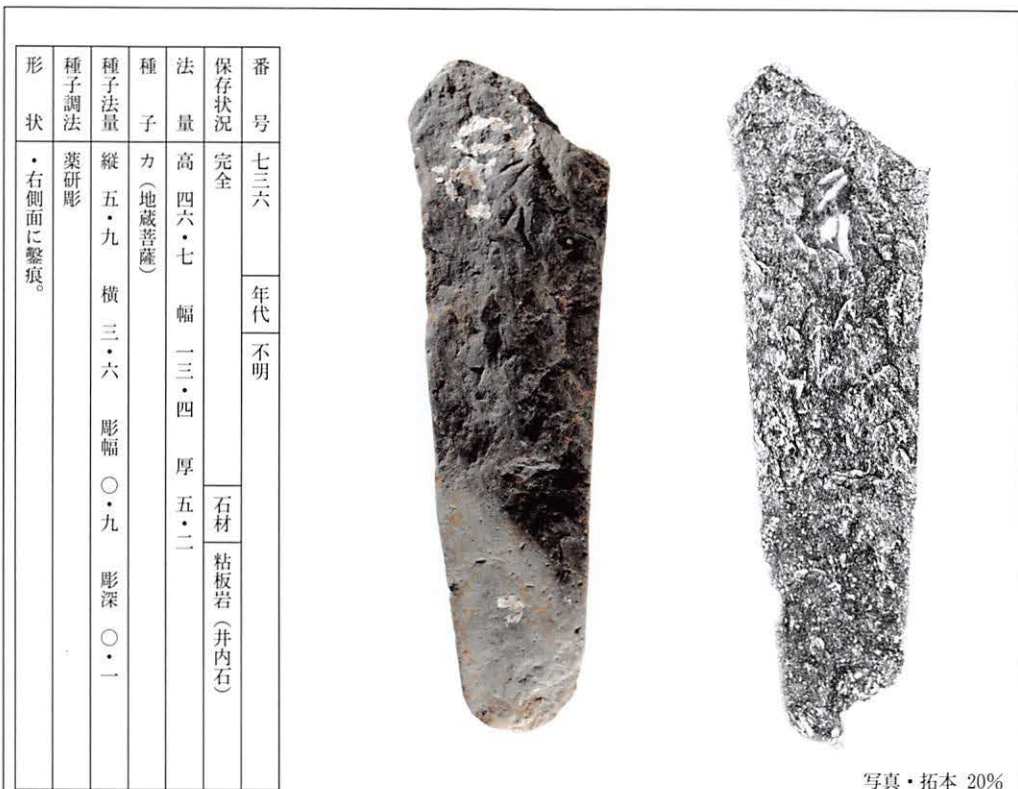


写真・拓本 15%



番 号	七三五	年代	不明	石 材	粘板岩 (井内石)	保存状況	完全
	法 量						高 一九・七 幅 一〇・五 厚 二・一
種 子	パン (金剛界大日如来)						
種子法量	縦 四・三 横 二・三 彫幅 〇・九 彫深 〇・一						
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。						
形 状	・右側面敲打。						



写真・拓本 40%





番号	七五三	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 六九・二 幅 二〇・六 厚 四・八		
種子	カン(馬頭観音)		
種子法量	縦 九・九 横 五・五 彫幅 一・八五 彫深 〇・一五		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部右側から基部右側まで割り筋ぎ。 ・背面 左側割り筋ぎ。 ・左側面は節理面を、背面頭部は母岩面を利用。 		



写真・拓本 25%

番号	七六一	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四一・三 幅 一六・五 厚 二・四		
種子	パン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦 六・六 横 二・六 彫幅 〇・七 彫深 〇・〇五		
種子調法	葉研彫		
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・左右側面整形。 ・上端と下端は節理面を利用。 		



写真・拓本 20%

番号	七六五	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三六・五	幅二〇・〇	厚三・〇
種子	パン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦四・七	横五・〇	彫幅〇・三
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・下部破損。		

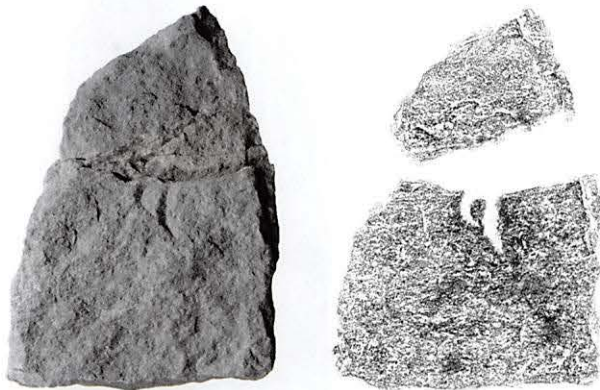
写真・拓本 20%

番号	七六六	年代	不明
保存状況	完全		
法量	高二六・五	幅二〇・〇	厚二・〇
種子	力(地藏菩薩)		
種子法量	縦五・七	横二・九	彫幅〇・四
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。・下部左側割り矧ぎ。・背面 右側割り矧ぎ。		


写真・拓本 20%

番 号	七六七		年代	不明
保存状況	一部破損			
法 量	高 二六・〇 幅 一七・九 厚 三・二			
種 子	パン（金剛界大日如来）？			
種子法量	縦 四・四	横 二・七	彫幅 一・一	彫深 〇・一五
種子調法	葉研彫			
形 状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部整形。 ・下部破損。 ・背面 左右両側面から割り矧ぎ。 ・二つの破片が接合。 ・種子の上半分が破損。 			
備 考	・石材は砂質性。			





写真・拓本 20%

番 号	七六八	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩（井内石）
法 量	高 六一・五 幅 二〇・三 厚 四・一		
種 子	バ（金剛薩唾）		
種子法量	縦 六・七 横 三・五 彫幅 一・二 彫深 〇・一五		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形 状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部整形。 ・下部左側割り矧ぎ。 ・背面 右側割り矧ぎ、下部左側割り矧ぎ。 		





写真・拓本 15%

番号	七七一	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高三・五	幅	一四・八	厚	二・八
種子	パン(金剛界大日如来)				
種子法量	縦 五・三	横	二・七	彫幅	〇・八
種子調法	葉研彫			彫深	〇・〇五

写真・拓本 25%

番号	七七二	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高三四・七	幅	二五・三	厚	二・五
種子	パン(金剛界大日如来)?				
種子法量	縦 九・五	横	五・二	彫幅	一・五
種子調法	葉研彫			彫深	〇・一五
形状	・頭部整形か。				
備考	・種子は磨滅により、確認することが難しい。				

写真・拓本 15%

番号	七七三	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(玄昌石系)
法量	高 四六・五 幅 二六・七 厚 一・八		
種子	サク(勢至菩薩)		
種子法量	縦 六・一 横 八・六 彫幅 〇・八 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平整で底線に直角に彫る。		





写真・拓本 15%

番号	七七四	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(玄昌石系)
法量	高 三七・〇 幅 一九・一 厚 二・六		
種子	サ(聖観音菩薩)		
種子法量	縦 四・七 横 五・八 彫幅 〇・八 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 研磨。		





写真・拓本 20%

番 号	七 七 六	年 代	不 明	石 材	粘 板 岩 (井 内 石)
保 存 状 況	一 部 破 損				
法 量	高 二 九 ・ 〇	幅 二 〇 ・ 二	厚 三 ・ 八		
種 子	パ ン (金 剛 界 大 日 如 來)				
種 子 法 量	縦 九 ・ 六	横 四 ・ 一	彫 幅 一 ・ 一	彫 深 〇 ・ 二 五	
種 子 調 法	葉 研 彫				
形 状	<ul style="list-style-type: none"> ・下部破損。 ・上端部に節理面。 ・背面・左右両側面から割り切ぎ、敲打か。 				


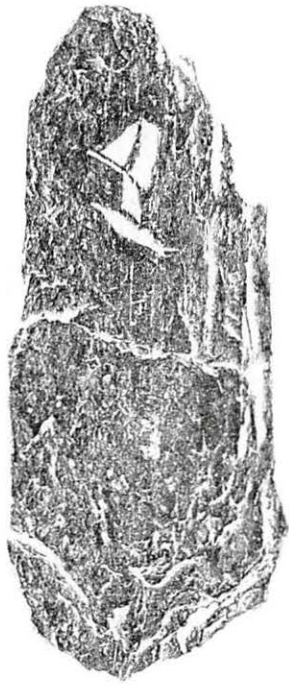
写真・拓本 20%

番 号	七七九	年 代	不 明	石 材	粘板岩（玄昌石系）
保存状況	一部破損				
法 量	高 七・八・二	幅 二六・二	厚 四・九		
種 子	カ（地藏菩薩）				
種子法量	縦 七・二	横 五・二	彫幅 一・〇	彫深 〇・一	
種子調法	葉研彫 研磨。				
形 状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部整形、敲打、研磨。 ・上部左側割り切ぎ。 ・左右両側面敲打か。 				
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・碑面の磨滅が甚だしく種子の判読が難しい。 ・背面 貝による孔が多数あり、そのうち四つは碑面表にまで貫通。 				



写真・拓本 10%

番 号	七八〇	年代	不明
	保存状況		
法 量	高 四五・四	幅 一八・七	厚 四・七
	種 子		
種 子 法 量	縦 九・〇	横 五・〇	彫幅 一・八
	種 子 調 法		
形 状	<ul style="list-style-type: none"> ・左側上部割り矧ぎ、下部左右両側面へ割り矧ぎ、敲打。 ・頭部右側は母岩面を利用。 		



写真・拓本 20%

番 号	七八二	年代	不明
	保存状況		
法 量	高 四六・三	幅 二〇・四	厚 三・五
	種 子		
種 子 法 量	縦 五・七	横 五・九	彫幅 〇・七
	種 子 調 法		
形 状	・上端部破損。		


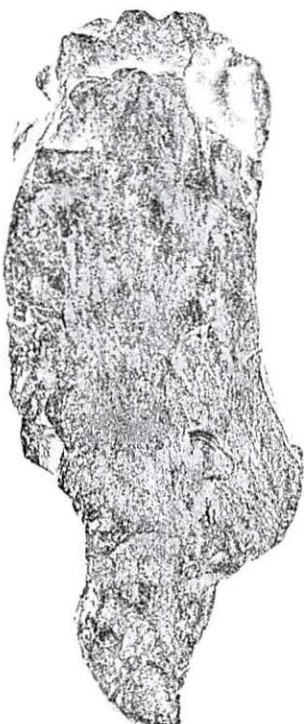
写真・拓本 20%

番号	七八四	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高 五・六・九	幅 一・九・七	厚 三・三		
種子	ナ(龍樹菩薩)				
種子法量	縦 七・九	横 四・九	彫幅 一・五	彫深 四・五	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。				
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部整形、左右側面から割り崩し、敲打。 ・石材は大きく割り取った破片を利用。 ・下部破損。 ・右側面中央部の凹状の割れは、破壊痕か加工によるものか不明。 				


写真・拓本 15%

番号	七八九	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高 三・三・〇	幅 一・二・五	厚 一・八		
種子	不明				
種子法量	縦 四・九	横 三・三	彫幅 一・一	彫深 〇・二	
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。				
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・種子の一部が見える破片(種子はバンもしくはバカ。法量は確認値)。 				

写真・拓本 30%

番号	七九四	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一・八・二	幅	一四・二
種子	ラン(金剛語菩薩)	厚	二・三
種子法量	縦 四・六	横	二・五
種子調法	葉研彫	彫幅	〇・七
		彫深	〇・一

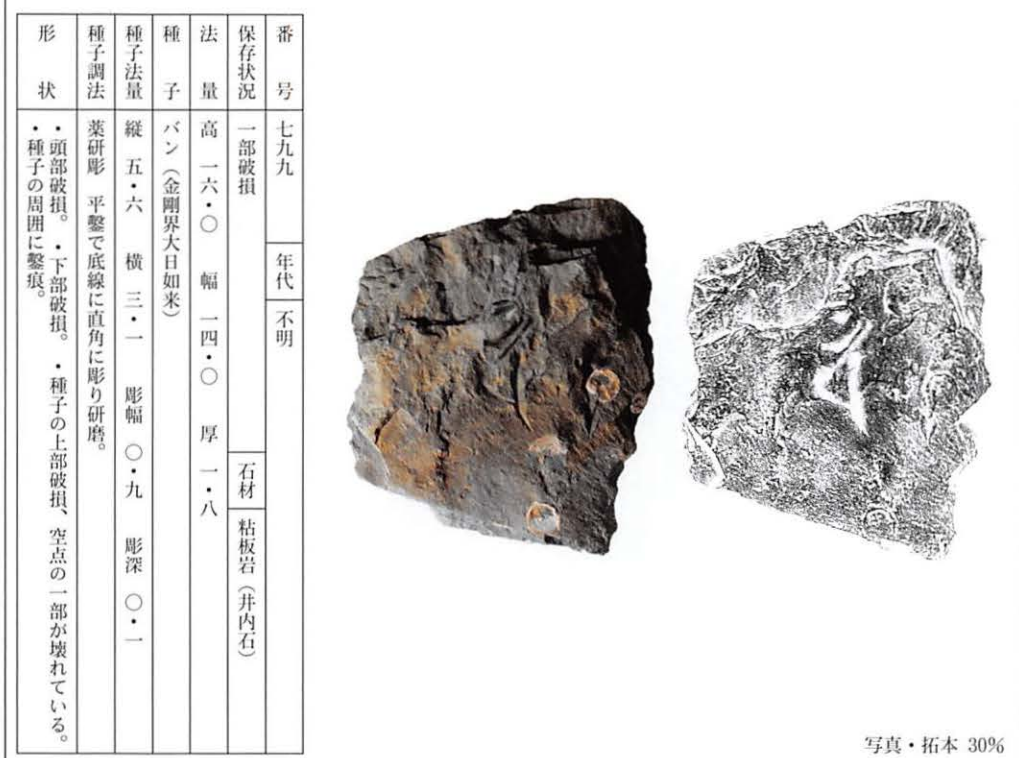
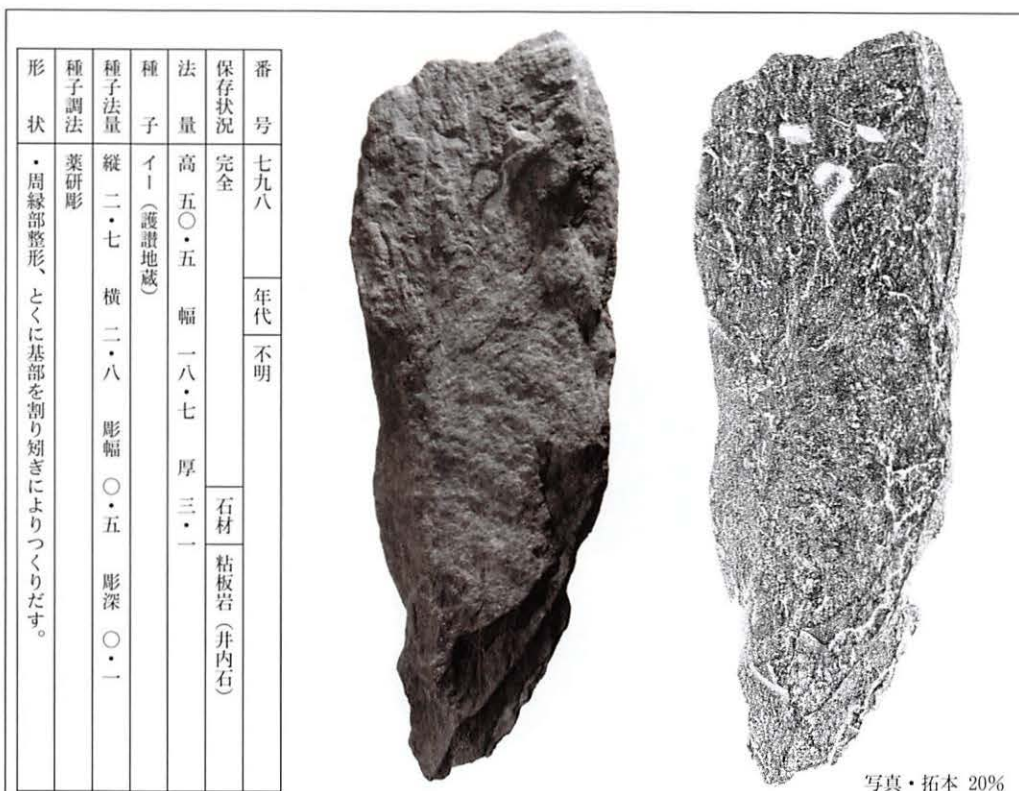


写真・拓本 30%

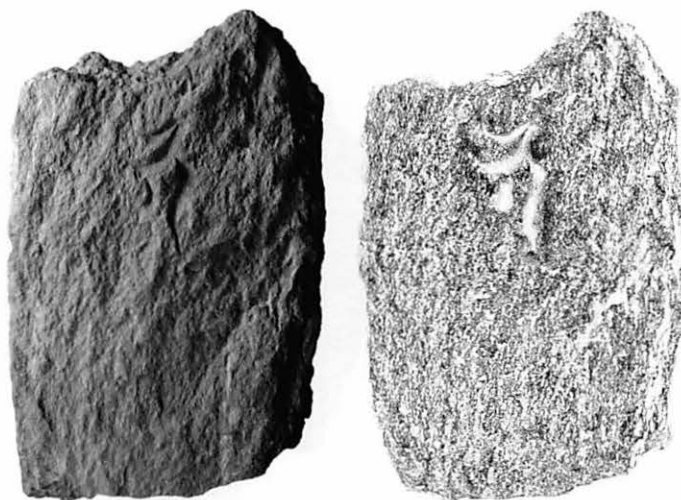
番号	七九六	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二・七・六	幅	一七・三
種子	ナ(龍樹菩薩)	厚	三・四
種子法量	縦 一〇・五	横	五・〇
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。	彫幅	一・五
形状	・上端部敲打整形。 ・種子は磨滅により判読が難しい。	彫深	〇・二



写真・拓本 25%

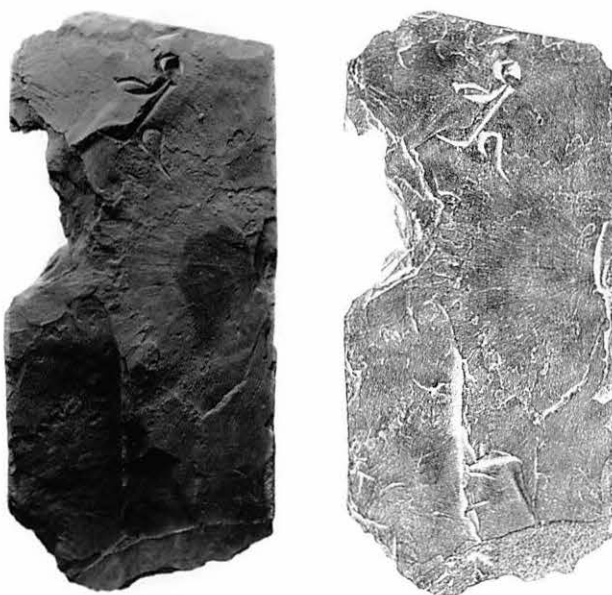


番号	八〇三
年代	不明
保存状況	一部破損
法量	高三・二 幅二一・〇 厚二・一
種子	ナ(龍樹菩薩)
種子法量	縦 八・〇 横 四・〇 彫幅 一・八 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。
形状	・下部破損。・種子の右下に鑿痕。




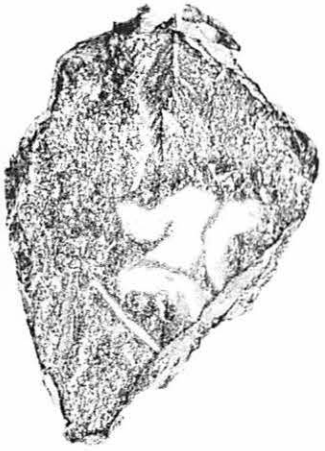
写真・拓本 20%

番号	八〇四
年代	不明
保存状況	一部破損
法量	高三九・〇 幅一八・一 厚一・七
種子	バイ(葉師如來、毘沙門天)
種子法量	縦 八・四 横 五・五 彫幅 一・一 彫深 〇・一三
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。
形状	・左側中央破損。・上端部、左右側面節理面を利用。 ・背面 割り矧ぎ(左側面に打撃痕)。・スレート状の石材。





写真・拓本 20%

番号	八〇五	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 一八・三 幅 一四・〇 厚 一・八		
種子	タラーク(虚空蔵菩薩)		
種子法量	縦 七・二 横 七・〇 彫幅 一・四五 彫深 〇・三		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。・種子の中央部から下は破損(種子の法量は確認値)。		



写真・拓本 30%

番号	八〇六	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 五〇・七 幅 一八・〇 厚 三・七		
種子	カ(地藏菩薩)		
種子法量	縦 九・三 横 五・一 彫幅 一・六 彫深 〇・一五		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・上端部右側破損。・下部右側破損。 ・左右側面節理面を利用し、上端部、下端部整形。 ・背面 左側割り崩き。		

写真・拓本 15%



番 号	八〇七	年 代	不明	保存 状況	完全	法 量	高 四九・七 幅 一七・〇 厚 三・三	種 子 カ（地藏菩薩） <th rowspan="2">種子法量 縦 六・五 横 四・三 彫幅 一・二五 彫深 〇・一<th rowspan="2">種子調法 葉研彫 尖り鑿で彫り、平鑿で底線に直角に彫る。その後研磨。<th rowspan="2">形 状 ・ 周縁部敲打。・ 上端部、下部整形。・ 種子の右下剥離。 ・ 背面 割り剥ぎ。</th></th></th>	種子法量 縦 六・五 横 四・三 彫幅 一・二五 彫深 〇・一 <th rowspan="2">種子調法 葉研彫 尖り鑿で彫り、平鑿で底線に直角に彫る。その後研磨。<th rowspan="2">形 状 ・ 周縁部敲打。・ 上端部、下部整形。・ 種子の右下剥離。 ・ 背面 割り剥ぎ。</th></th>	種子調法 葉研彫 尖り鑿で彫り、平鑿で底線に直角に彫る。その後研磨。 <th rowspan="2">形 状 ・ 周縁部敲打。・ 上端部、下部整形。・ 種子の右下剥離。 ・ 背面 割り剥ぎ。</th>	形 状 ・ 周縁部敲打。・ 上端部、下部整形。・ 種子の右下剥離。 ・ 背面 割り剥ぎ。
	石 材 粘板岩（井内石）										



写真・拓本 20%

写真・拓本 20%



番 号	八〇八		年 代	不 明	石 材	粘板岩（井内石）	保 存 状 況	一 部 破 損
法 量	高 二八・〇	幅 一六・五					厚 三・〇	種 子
種子法量	縦 三・五	横 一・五	彫幅 〇・五	彫深 〇・〇五	種子調法	葉研彫 研磨。	形 状	・ 頭部右側破損。



写真・拓本 25%



写真・拓本 25%

番号	八二〇	年代	不明	石材	粘板岩(玄昌石系)
保存状況	一部破損				
法量	高三六・〇	幅	一〇・九	厚	二・八
種子	ラン(金剛語菩薩)				
種子法量	縦五・六	横	二・六	彫幅	〇・九
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。				
形状	・周縁部敲打。・上端部拱埋面を利用。・下端部破損。				


写真・拓本 25%

番号	八二三	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高二六・五	幅	一四・〇	厚	三・四
種子	サ(聖観音菩薩)				
種子法量	縦六・一	横	五・五	彫幅	一・〇
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。				
形状	・頭部整形(奥行きに傾斜をつくりだす)。・下部破損。				


写真・拓本 30%

番 号	八一四	年代	不明	石材	粘板岩(玄昌石系)	保 存 状 況	完 全	法 量	高 三一・五 幅 一四・三 厚 一・八	種 子	バン(金剛界大日如来)	種 子 法 量	縦 五・〇 横 一・二 彫幅 〇・一 彫深 〇・一	種 子 調 法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。	形 状	・上端部摂理面を利用。								



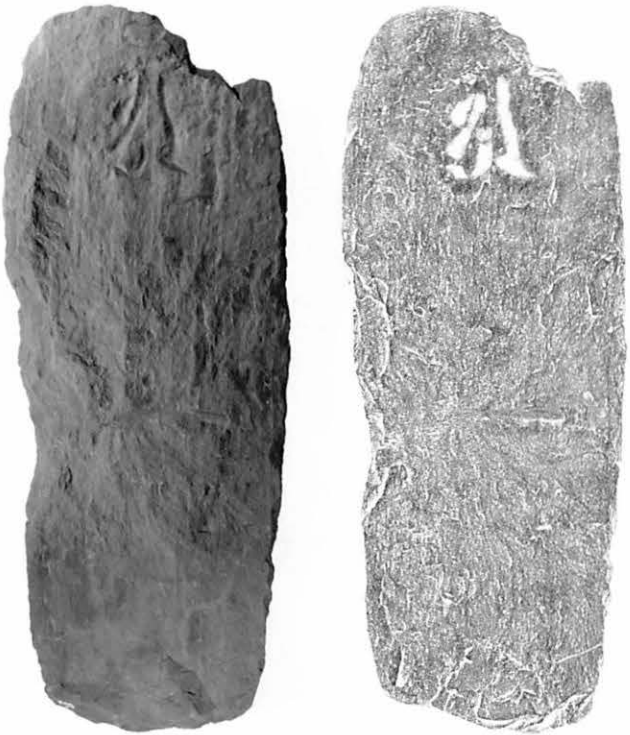
写真・拓本 30%

番 号	八一五	年代	不明	石材	粘板岩(井内石) ※川原石状。	保 存 状 況	一 部 破 損	法 量	高 二六・三 幅 一四・五 厚 三・一	種 子	カーン(不動明王)	種 子 法 量	縦 四・二 横 一・一 彫幅 〇・四 彫深 〇・一	種 子 調 法	葉研彫 研磨。	形 状	・背面 右側から下部にかけて破損(もともと破損している石材を利用した可能性もある)。								



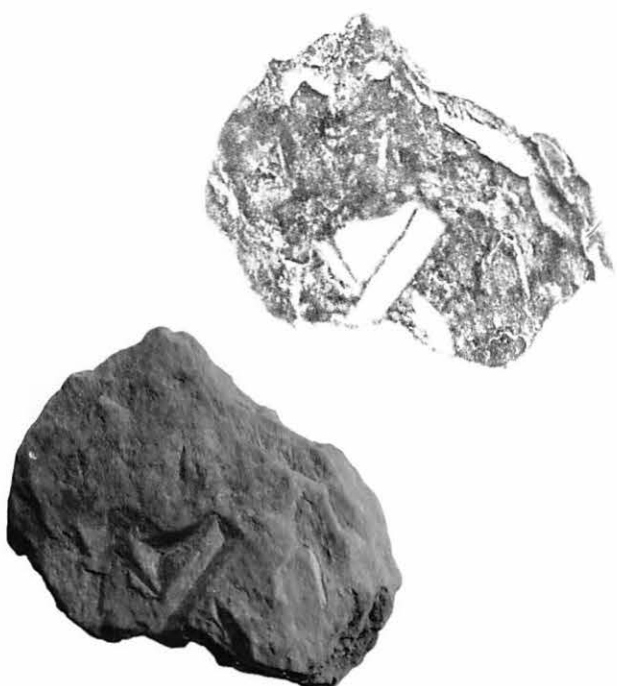
写真・拓本 25%

番号	八一八	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 六四・三 幅 二五・一 厚 三・八	種子	ア(胎蔵界大日如来)
種子法量	縦 八・九 横 七・七 彫幅 一・二 彫深 〇・二	種子調法	薬研彫
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・上端部、下端部整形。 ・背面 割り矧ぎ。 ・種子の中心部下側剥離。 		

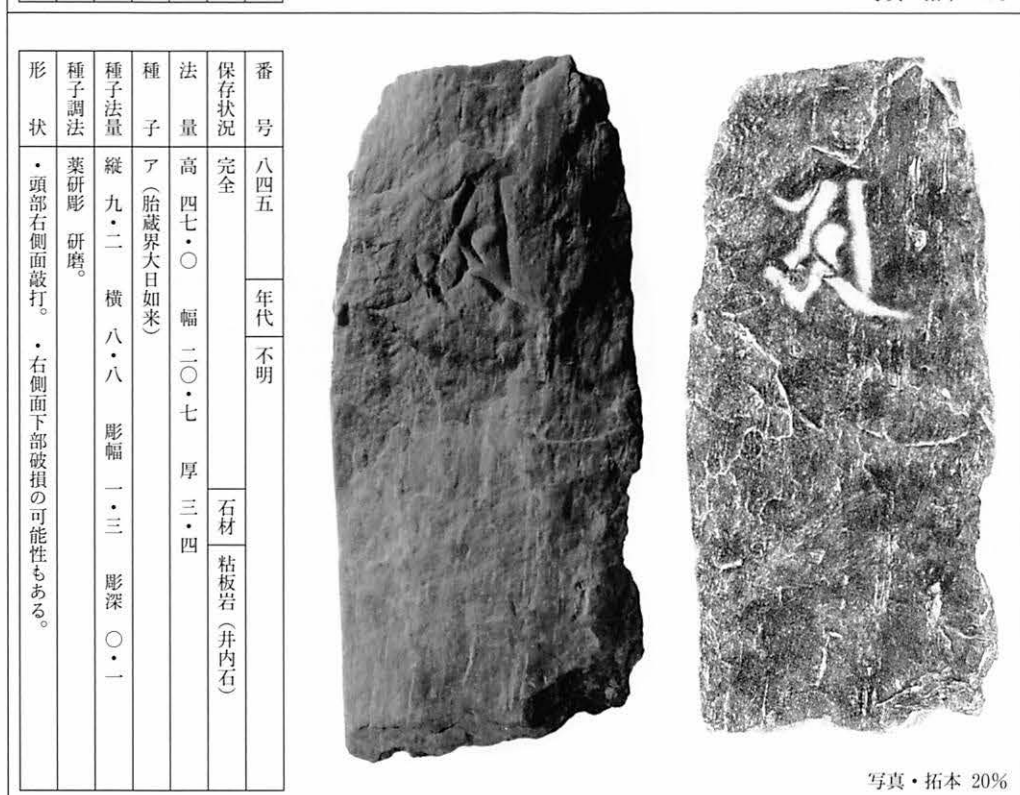
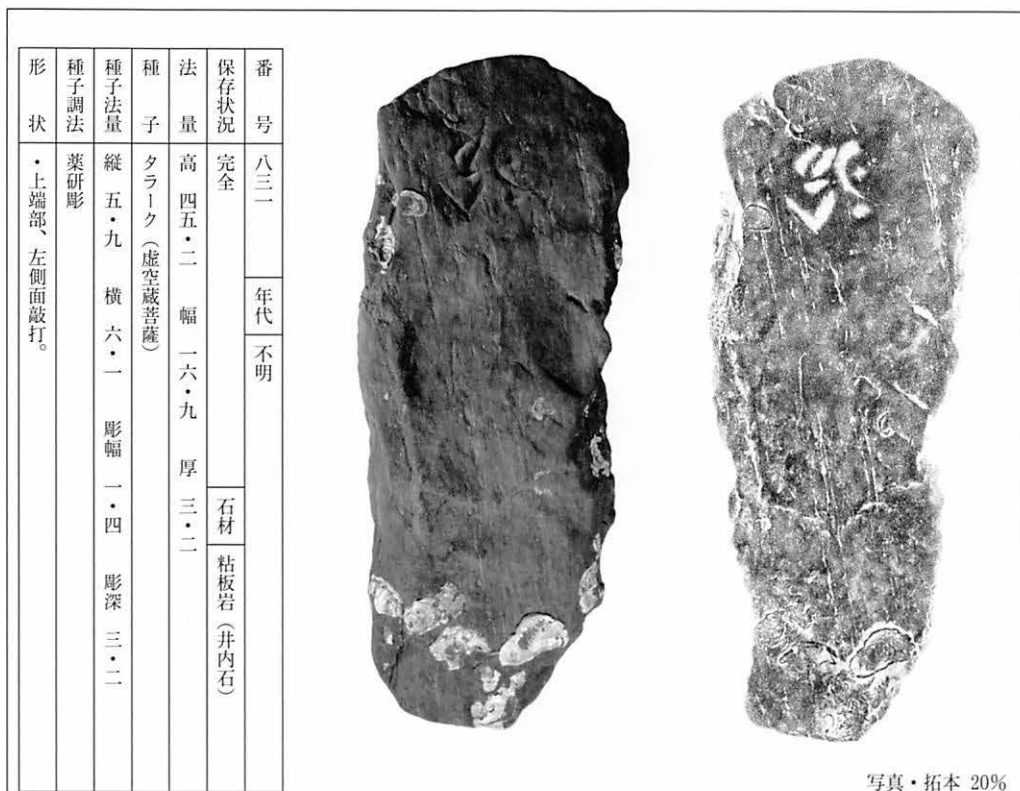


写真・拓本 15%

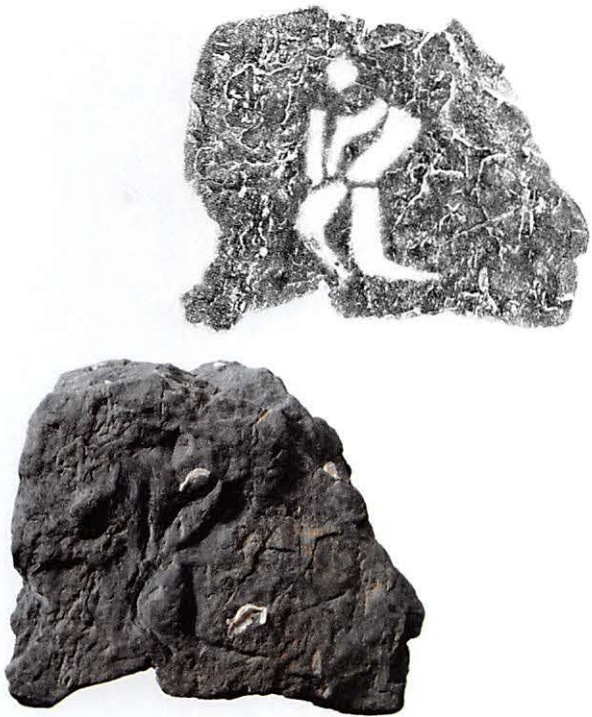
番号	八一九	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二一・二 幅 二〇・八 厚 二・八	種子	カ(地藏菩薩)?
種子法量	縦 八・二 横 七・一 彫幅 二・八 彫深 〇・二	種子調法	薬研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・種子の下半分から破損(種子の法量は確認値)。 ・頭部左側面敲打。 ・右側面整形。 		



写真・拓本 25%



番号	八四六	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩（井内石）
法量	高二・三・五 幅二七・三 厚四・五		
種子	パン（金剛界大日如来）		
種子法量	縦 一四・〇 横 八・三 彫幅 二・四 彫深 〇・〇八		
種子調法	薬研彫 研磨。		
形状	・頭部整形。・下部破損。		



写真・拓本 20%



写真1 雄島海底板碑群の調査風景（2008年4月23日撮影）

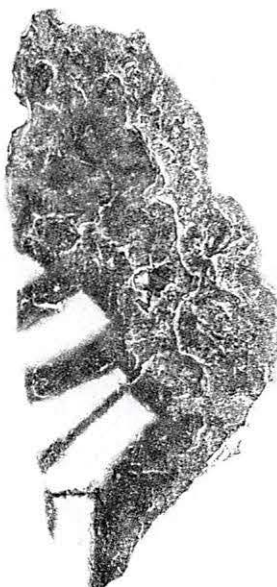



弘安九年六月日
孝子
敬白

番号	八五一	年代	弘安九年(一二八六)	鎌倉時代
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)	
法量	高 五六・四 幅 三二・三 厚 九・四			
形状	・銘文の一部のみが確認される破片。・碑面研磨。・下部剥離。			

写真・拓本 20%

番 号	八五四	年 代	不 明
保存状況	一部破損	石 材	粘板岩（井内石）
法 量	高 二六・五 幅 一一・九 厚 二・〇		
種 子	パン（金剛界大日如来）		
種子法量	縦 一三・七 横 五・七 彫幅 二・二 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形 状	・種子の一部のみが確認される破片（種子の法量は確認値）。 ・頭部右側面整形。		



写真・拓本 30%

写真・拓本 30%

番 号	八五五	年代	不明	石 材	粘板岩（井内石）	保存 状況	完全	法 量	高 六三・三 幅 一六・二 厚 八・二	種 子	ウーン（愛染明王・馬頭観音・阿闍如来）	種子 法量	縦 一五・〇 横 五・九 彫幅 一・二 彫深 〇・三五	種子 調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。	形 状	・上端部、下端部整形。・上部が薄く下部が厚い柱状形。・碑面研磨。	

写真・拓本 15%



写真・拓本 15%

番号	八五六	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高三・五	幅	一七・五	厚	六・五
種子	不明 ※バ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)。				
種子法量	縦 一〇・〇	横	四・五	彫幅	一・〇 彫深 〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。				
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部整形。・右側面敲打。・下部破損。 ・種子の中央から碑面下部にかけて調整(刺突痕) ・頭部破損(剥離)により種子の種類が特定できない(種子法量は確認値)。 				




写真・拓本 20%

番号	八五九	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高三四・一	幅	一七・九	厚	二・二
種子	ウーン(愛染明王・馬頭観音・阿闍如来)				
種子法量	縦 九・三	横	四・二	彫幅	一・一 彫深 〇・四
種子調法	葉研彫				
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・下部中央に二箇所の削り痕。・種子の下に三箇所の鑿痕。 				

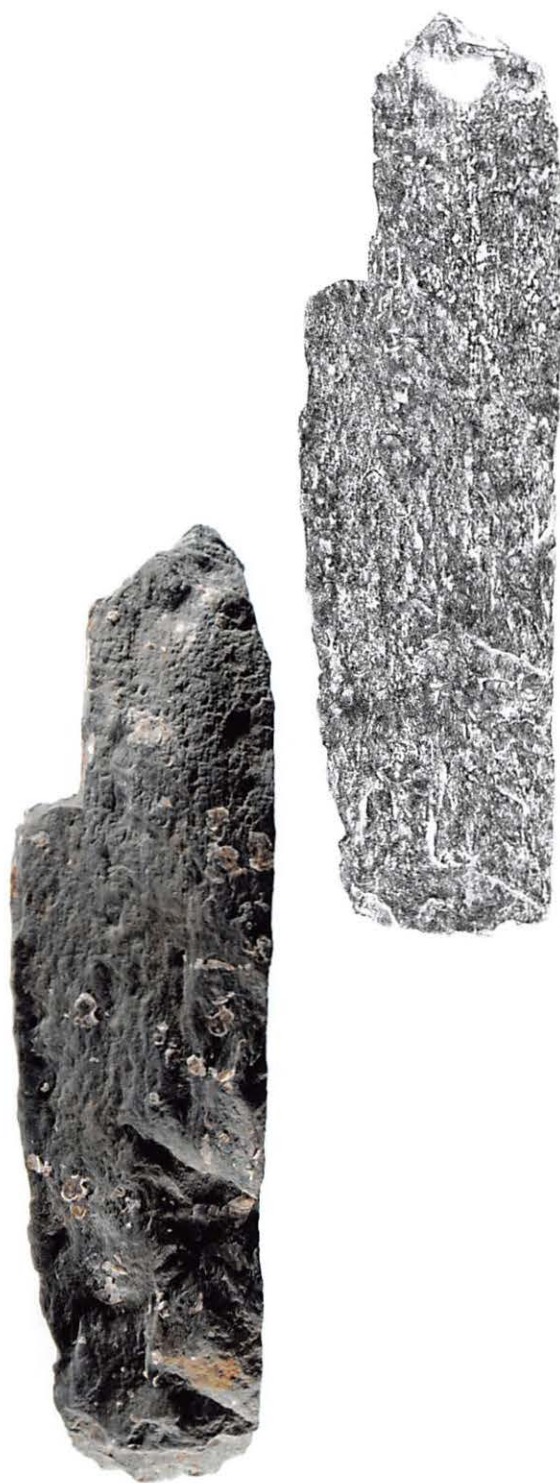
写真・拓本 20%

番 号	八六八		保存状況	一部破損	年代	不明	石材	粘板岩（井内石）
法 量	高 四一・七 幅 二五・二 厚 二・七							
種 子	力（地藏菩薩）							
種子法量	縦 六・二 横 三・八 彫幅 一・二 彫深 〇・一							
種子調法	葉研彫 研磨。							
形 状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部整形。 ・右側面敲打。 ・背面 上部割り矧ぎ。 ・左側面上部破損。 ・種子上部破損（種子法量は確認値）。 							
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・井内石特有の縞状層理を横にして板碑を製作。 							

写真・拓本 15%

番号	八八二		年代	不明	保存状況	完全	法量	高 五一・八 幅 一五・〇 厚 六・〇	種子	パン（金剛界大日如来）	種子法量	縦 七・〇 横 二・九 彫幅 〇・七五 彫深 〇・一五	種子調法	葉研彫 平整で底線に直角に彫り研磨。	
					石材	粘板岩（井内石）									

写真・拓本 15%





□ 八月時正

番 号	八八六	年代	不明
保存状況	一部破損		
法 量	高 六六・二	幅 一七・六	厚 五・八
種 子	不明		
種子法量	縦 — 横 —	彫幅 —	彫深 ○・一五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種子残画の下の部分調整（刺突痕。※文字を消した可能性もある）。 ・ 左側面、下端部整形。 		



写真・拓本 20%

番 号	八八七	年代	不明	石材	粘板岩（井内石）	保存状況	一部破損
	法 量						高二・四・六 幅 一四・一 厚 三・七
種 子	パン（金剛界大日如来）						
種子法量	縦 四・九 横 三・五 彫幅 〇・七 彫深 〇・一						
種子調法	葉研彫						
形 状	・頭部右側破損により種子の一部も欠けている（種子法量は確認値）。 ・下部整形。						



写真・拓本 30%

番 号	八九二	年代	不明	石材	粘板岩（井内石）	保存状況	一部破損
	法 量						高一〇・五 幅 七・七 厚 一・三
種 子	パン（金剛界大日如来）						
種子法量	縦 四・五 横 一・八 彫幅 〇・四 彫深 〇・五						
種子調法	葉研彫						
備 考	・種子の部分のみの破片。 ・種子本体の下部右横に鑿痕。						




写真・拓本 50%

番号	八九四	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二・四・四	幅	一四・六
種子	ラン(金剛語菩薩)	厚	二・五
種子法量	縦六・一	横	二・三
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。	彫幅	〇・四
形状	・上端部、右側面敲打。・左側破損。・背面 左側中央削り痕。	彫深	〇・一五



写真・拓本 30%

番号	八九六	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二・一	幅	一九・四
種子	口(北斗星、他化自在天)	厚	三・〇
種子法量	縦七・二	横	五・二
種子調法	丸彫 矢り鑿で彫り込む。	彫幅	〇・七
形状	・下部破損。・種子の左側調整(刺突痕)。	彫深	〇・一三
備考	<p>・種子口はキリク(阿弥陀如来)を改刻。キリクの法量は縦六・七、横六・四、彫幅〇・八、彫深〇・〇七(確認値)、種子調法は葉研彫、研磨。</p> <p>・種子の上下横方向、左側縦方向に二本の罫線(種子を開むように引かれている)。</p>		

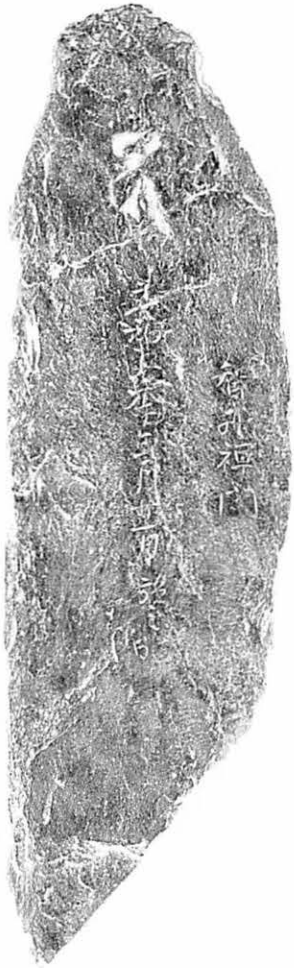


写真・拓本 25%

番 号	八九八	年代	文保二年（一二二八）	鎌倉時代
	保存状況		完全	
法 量	高 六五・〇	幅 一九・五	厚 二・七	
種 子	カ（地藏菩薩）			
種子法量	縦 七・五	横 四・〇	彫幅 一・一	彫深 〇・一
種子調法	葉研彫 研磨。			
形 状	・頭部整形。・周縁部敲打。・下端部節理面を利用。 ・背面 上部右側、下部割り矧ぎ。 ・種子本体下部、文字「文」の所に斜めの疵痕。			





智蔵禪門
(カ) 文保二年三月廿一日 施主
白 □ 敬





写真・拓本 20%

番号	九〇一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高三・八・二 幅二・二・一 厚二・九		
種子	不明 ※バ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)。		
種子法量	縦四・六 横四・八 彫幅一・六 彫深〇・二		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・種子の上半分から破損(種子法量は確認値)。 ・下部左側割り刻ぎ。 ・左右側面敲打。 ・背面 右側から下部にかけて割り刻ぎ。 		

写真・拓本 15%

番号	九〇四	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二・一・六 幅一七・四 厚二・六		
種子	不明 ※バ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)。		
種子法量	縦一〇・五 横四・五 彫幅二・七 彫深〇・五		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・種子の一部のみの破片(種子法量は確認値)。 ・上部左側面敲打。 		

写真・拓本 25%



番号	九一一	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三・四	幅一七・六	厚二・六
種子	パン(金剛界大日如來)		
種子法量	縦四・五	横三・〇	彫幅〇・八 彫深〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。・下部破損か。		

写真・拓本 25%

番号	九一三	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三・六	幅二四・〇	厚四・一
種子	カク(金剛笑菩薩・勝三世明王)		
種子法量	縦九・三	横七・三	彫幅一・五 彫深〇・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。・頭部右側、下部破損。		
備考	・種子の下に二本の横線。		

写真・拓本 20%

番号	九一六	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(玄昌石系)
法量	高 二七・九 幅 一二・一 厚 一・九	種子	ラ(金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩)
種子法量	縦 二・九 横 二・二 彫幅 〇・六 彫深 〇・〇五	種子調法	薬研彫
形状	・頭部、下部破損。・左右側面敲打。		



写真・拓本 30%

番号	九一八	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 七四・三 幅 二四・五 厚 二・九	種子	カン(馬頭観音)
種子法量	縦 一〇・二 横 四・九 彫幅 一・九 彫深 〇・四	種子調法	薬研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。
形状	・頭部整形。・上部左右両側面敲打。・下部右側剥離。		






写真・拓本 10%

番号	九一九	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 一六・四 幅 一三・三 厚 二・三		
種子	ラン(金剛語菩薩)		
種子法量	縦 五・七 横 三・一 彫幅 一・一 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部割り短き。・下部破損。・左右両側面敲打。		

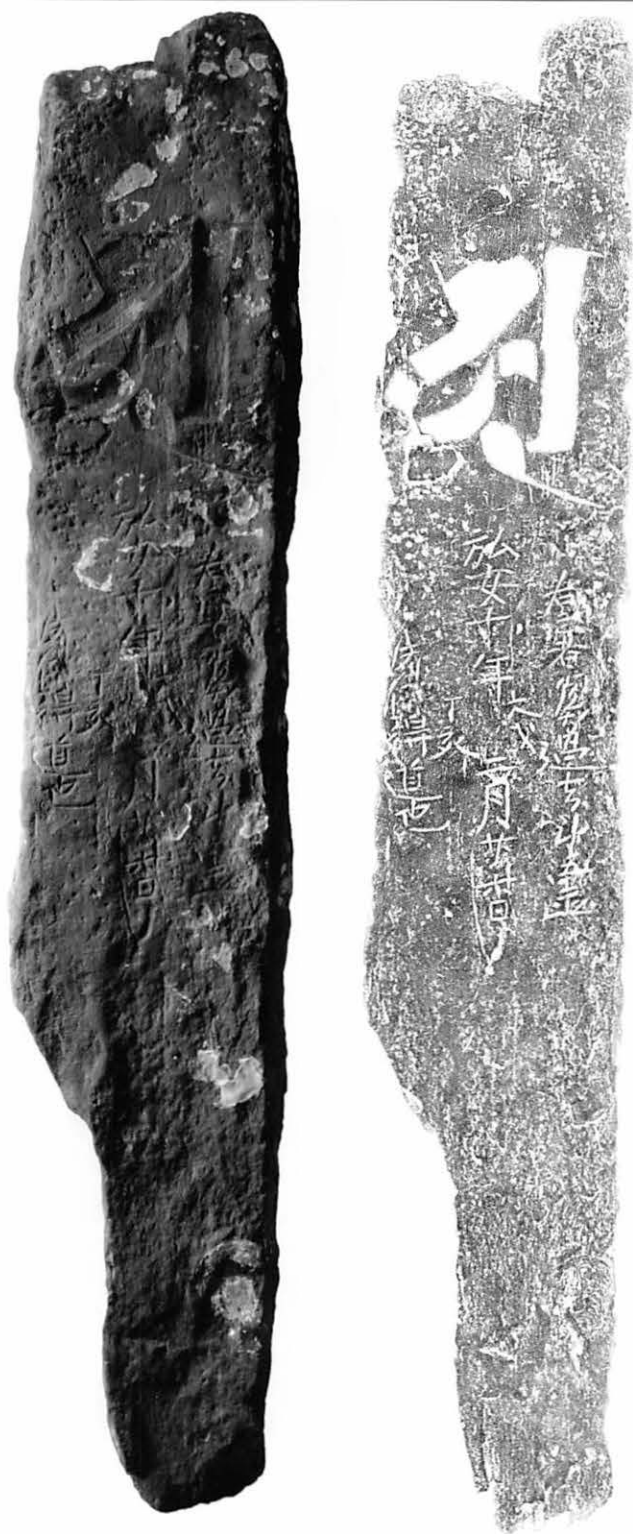



写真・拓本 30%

番号	九二〇	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三〇・〇 幅 一九・五 厚 三・五		
種子	バン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦 九・二 横 三・〇 彫幅 一・〇 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。		
形状	・下部破損。・左側面敲打。		

写真・拓本 20%



写真・拓本 25%

右志者為過去聖靈

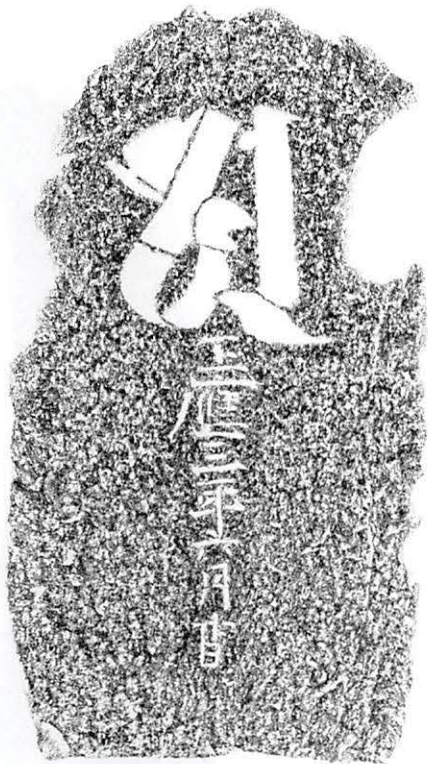
(ア)

弘安十年 二月廿六日

丁亥

成佛得道也

番号	年代	鎌倉時代
九二七	弘安十年(一二八七)	
保存状況	石材	粘板岩(井内石)
一部破損		
法量	高 八・一	幅 一五・八
種子	ア(胎蔵界大日如来)	厚 八・〇
種子法量	縦 一三・六	横 一〇・七
種子調法	箱彫 平整で底線に平行に彫り研磨。	彫幅 二・〇
形状	・頭部破損。・下部整形。・碑面研磨。・種子の一部剥落。	彫深 〇・二



(ア) 正應三年六月廿日

番 号	九二八		年代		正応三年（二九〇）		鎌倉時代	
	保存状況	一部破損	石材	砂岩				
法 量	高	八〇・〇	幅	四四・三	厚	一一・八		
種 子	ア（胎藏界大日如来）							
種子法量	縦	二五・三	横	二五・五	彫幅	六・〇	彫深	一・一
種子調法	葉研彫 研磨。							
形 状	・ 頭部整形。・ 下部左側面節理面を利用。・ 下端部平滑に調整。 ・ 頭部右側面破損。							





写真・拓本 12.5%



番号	九二九
年代	不明
保存状況	一部破損
法量	高 七三・〇 幅 一三・五 厚 四・〇
種子	ア(胎蔵界大日如来)?
種子法量	縦 一四・〇 横 三・二 彫幅 三・四 彫深 〇・二
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。
形状	・頭部整形。・下部左側面節理面を利用。 ・右側破損(種子の一部が残る)。背面 下端部に鑿痕。
備考	・銘文の一部「往生極樂大菩提也」。



写真・拓本 25%

番 号	九三一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法 量	高 五五・〇 幅 二一・六 厚 四・八		
種 子	口(北斗星、他化自在天)		
種子法量	縦 七・九 横 五・八 彫幅 二・〇 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形 状	・頭部整形。・左側面敲打。・下部左側、下端部破損。		

写真・拓本 15%

番 号	九三四	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法 量	高 四四・三 幅 一七・〇 厚 三・〇		
種 子	ラン(金剛語菩薩)		
種子法量	縦 八・一 横 四・五 彫幅 一・五 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫		
形 状	・頭部整形。・下部割り矧ぎ。・下部左右両側面敲打。・背面 割り矧ぎ。		



写真・拓本 20%

番号	九四〇	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	完全	法量	高 四九・八 幅 一九・八 厚 四・六	種子	サ(聖観音菩薩)
種子法量	縦 七・一 横 四・七 彫幅 〇・六 彫深 〇・一	種子調法	葉研彫 研磨。	形状	・頭部、下部整形。・左側面敲打。 ・背面 下部、右側面割り矧ぎ。・右側中央割り矧ぎ。



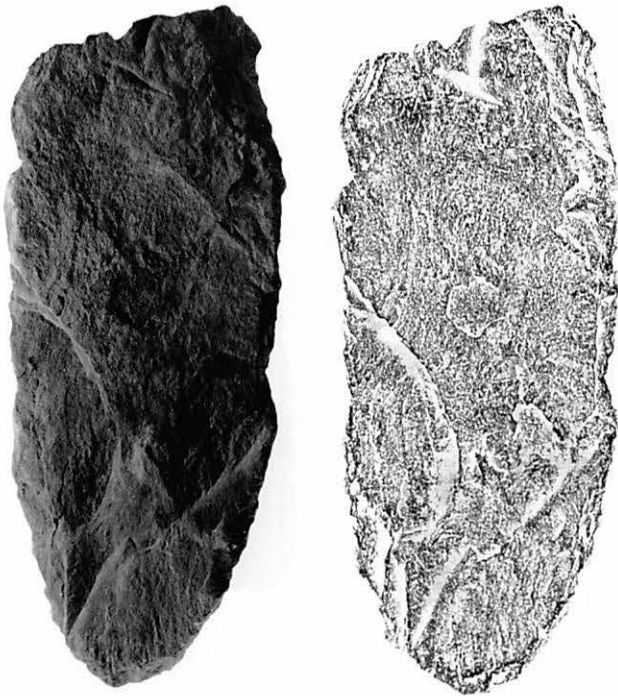

写真・拓本 15%

番号	九四一	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損	法量	高 四一・七 幅 一六・五 厚 二・五	種子	バン(金剛界大日如来)
種子法量	縦 八・六 横 二・五 彫幅 〇・七 彫深 〇・二	種子調法	葉研彫 研磨。	形状	・頭部整形。・下部破損。

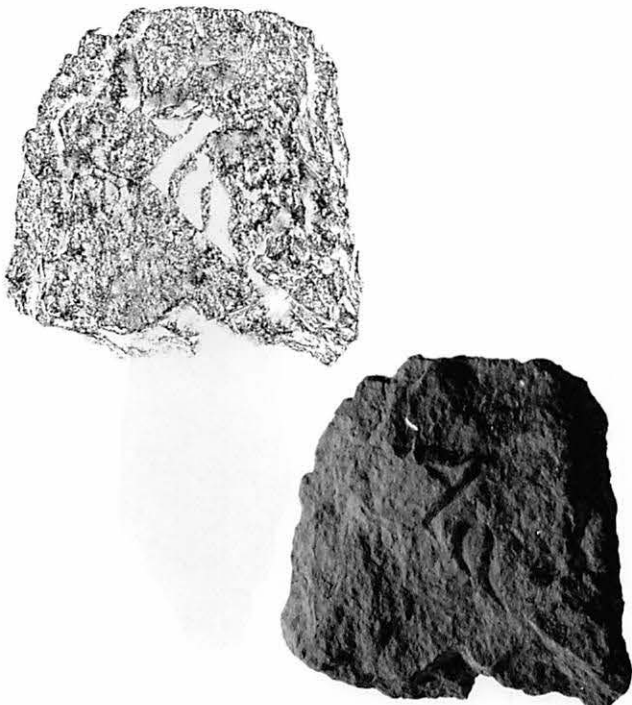
写真・拓本 20%

番号	九四五	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高 四五・五	幅 一八・七	厚 三・一
種子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）？		
種子法量	縦 五・九	横 四・六	彫幅 一・三 彫深 〇・二
種子調法	葉研影 研磨。		
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部破損（種子の上部破損により種子法量は確認値）。 ・下部整形。 ・下部左側剥離。 ・右側面敲打。 		





写真・拓本 20%

番号	九四九	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高 一二・八	幅 二三・六	厚 二・九
種子	カ（地蔵菩薩）		
種子法量	縦 一〇・五	横 五・四	彫幅 一・四 彫深 〇・二
種子調法	葉研影 平鑿で底線に平行に彫る。		
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部整形。 ・周縁部敲打。 ・下部破損。 		





写真・拓本 20%

番号	九五〇	年代	不明	保存状況	一部破損	法量	高三・九	幅	一七・八	厚	三・二	種子	不明	種子法量	縦 四・二	横	二・三	彫幅	〇・八	彫深	〇・一	種子調法	葉研彫 研磨。	形状	・頭部整形。・頭部右側、下部破損。 ・種子本体右側破損(種子法量は確認値)。
----	-----	----	----	------	------	----	------	---	------	---	-----	----	----	------	-------	---	-----	----	-----	----	-----	------	---------	----	---

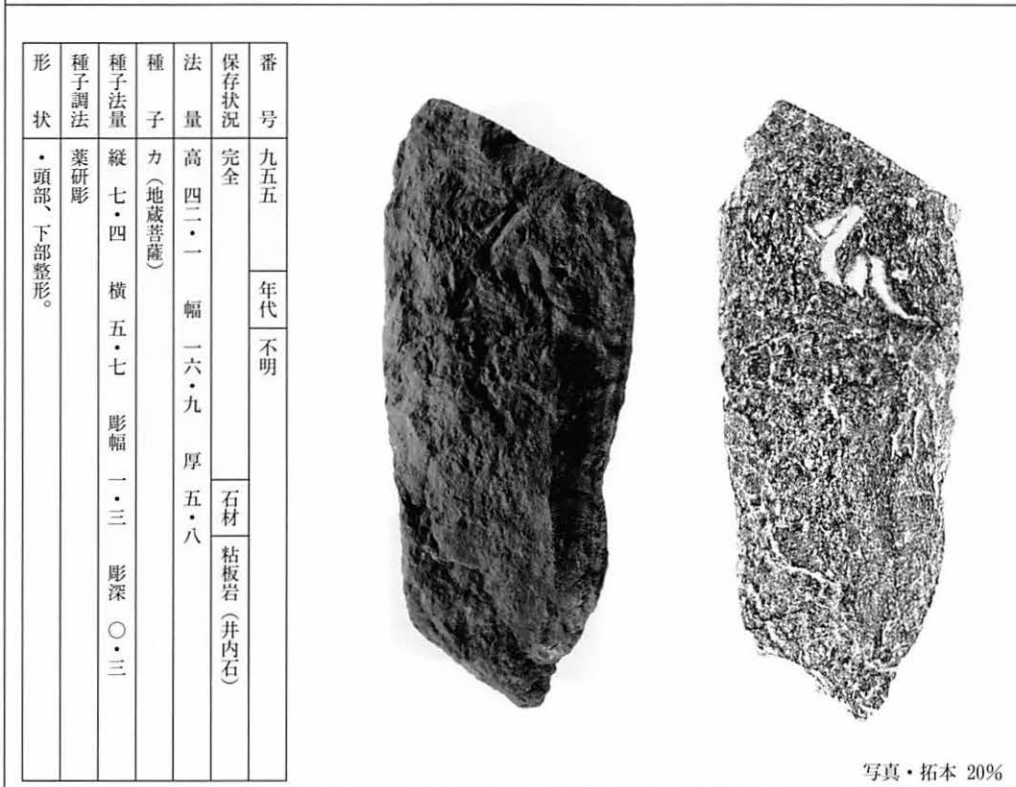
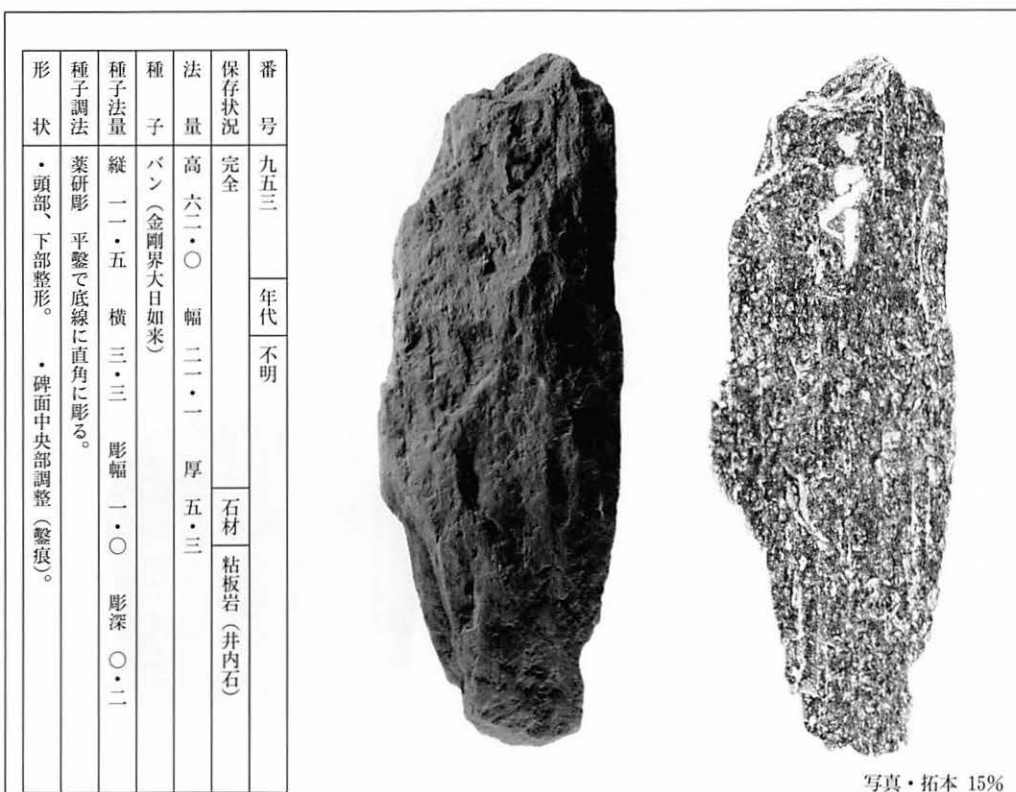



写真・拓本 20%

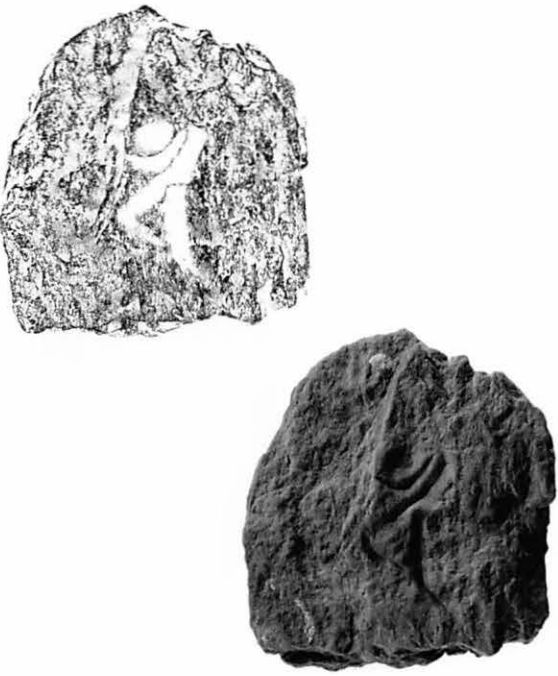
番号	九五二	年代	不明	保存状況	一部破損	法量	高 八一・〇	幅	二三・七	厚	九・三	種子	力(地藏菩薩)?	種子法量	縦 九・四	横	三・八	彫幅	一・四	彫深	〇・四	種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。	形状	・種子の上半分から破損、種子の種類が特定できない(種子法量は確認値)。 ・碑面研磨。・左側面中央部に鑿痕。
----	-----	----	----	------	------	----	--------	---	------	---	-----	----	----------	------	-------	---	-----	----	-----	----	-----	------	--------------------	----	--

写真・拓本 10%

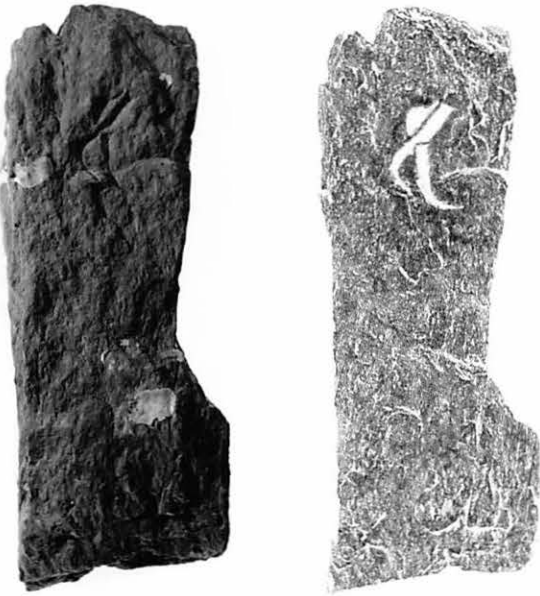


番号	九五七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 二・二・五 幅 二〇・五 厚 二・〇		
種子	パン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦 九・八 横 五・八 彫幅 一・三 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平整で底線に平行に彫る。		
形状	・頭部整形。・下部破損。・種子の中央部に鑿痕。		

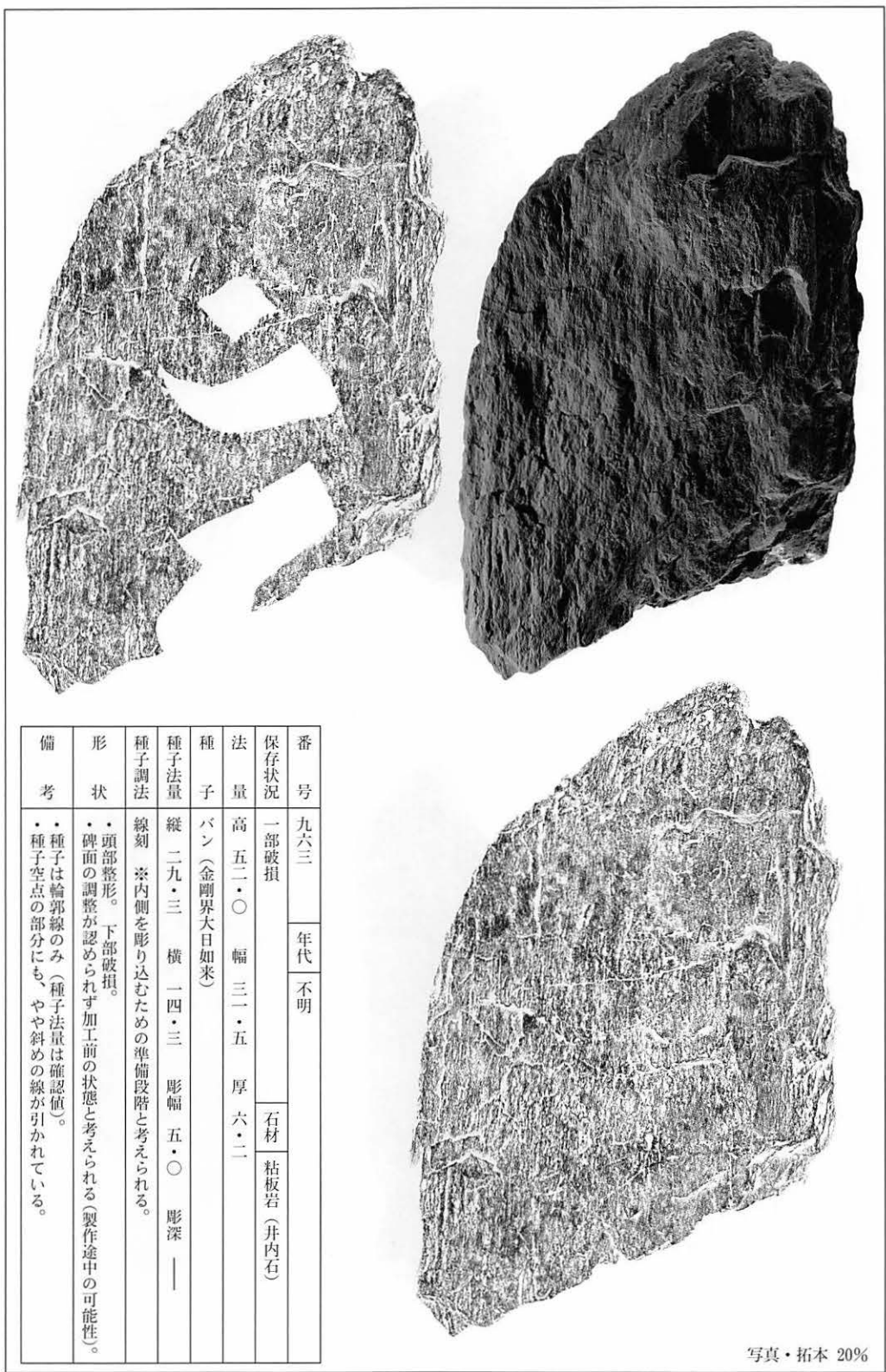


写真・拓本 20%

番号	九六一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 五〇・九 幅 九・二 厚 四・〇		
種子	バ(金剛薩埵)		
種子法量	縦 九・二 横 六・七 彫幅 一・四 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平整で底線に平行に彫る。		
形状	・頭部整形。・碑面中央部擦痕。 ・下部右側の凸部をはずそうとした痕跡(背面にも同じ痕跡が見られる)、 左側面を調整しようとした痕跡。製作途中の可能性。		

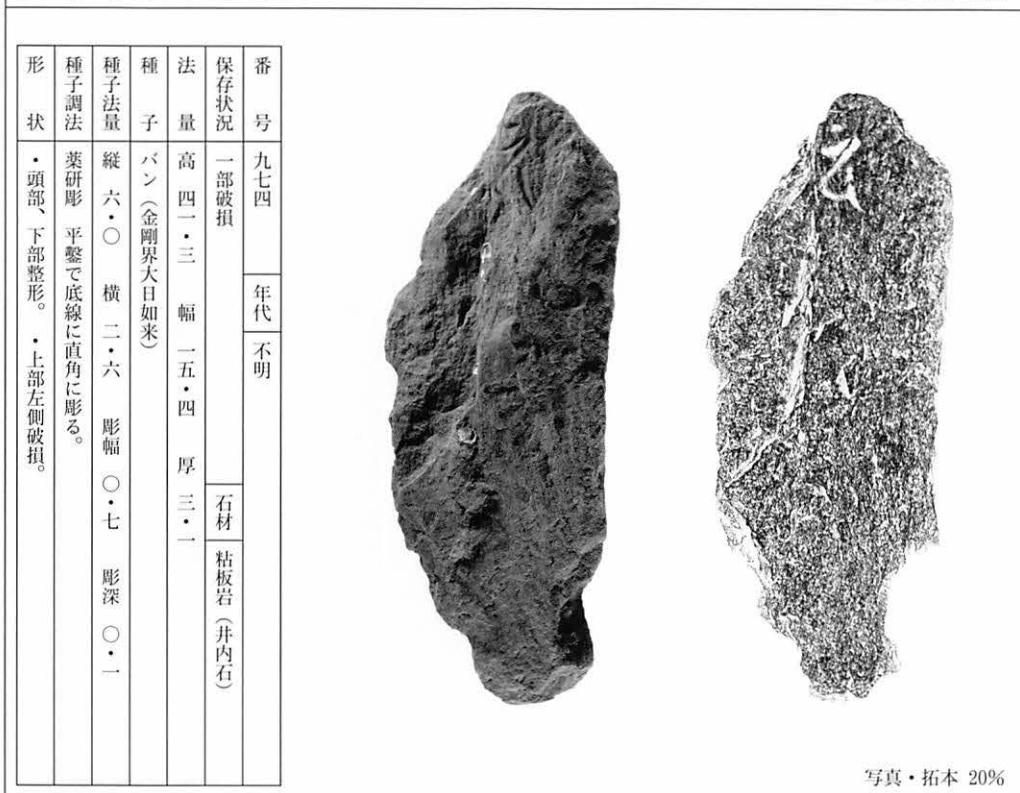
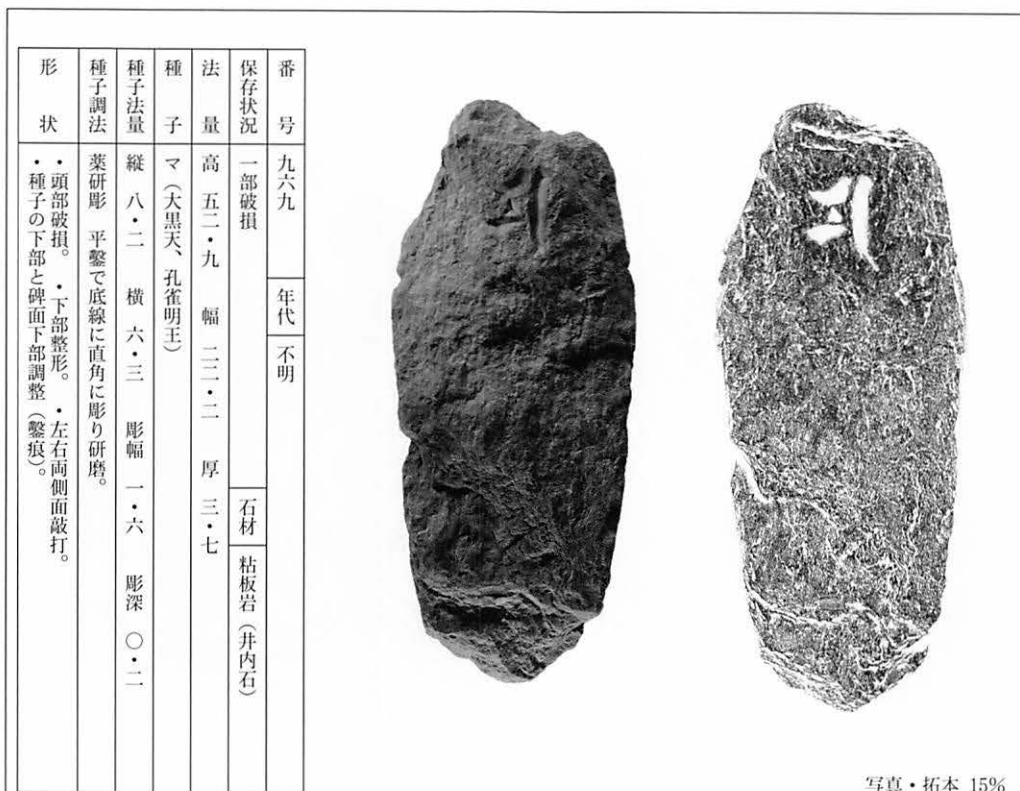


写真・拓本 15%



番号	九六三
年代	不明
保存状況	一部破損
法量	高 五二・〇 幅 三一・五 厚 六・二
種子	パン（金剛界大日如来）
種子法量	縦 二九・三 横 一四・三 彫幅 五・〇 彫深 —
種子調法	線刻 ※内側を彫り込むための準備段階と考えられる。
形状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部整形。下部破損。 ・碑面の調整が認められず加工前の状態と考えられる（製作途中の可能性）。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・種子は輪郭線のみ（種子法量は確認値）。 ・種子空点の部分にも、やや斜めの線が引かれている。

写真・拓本 20%

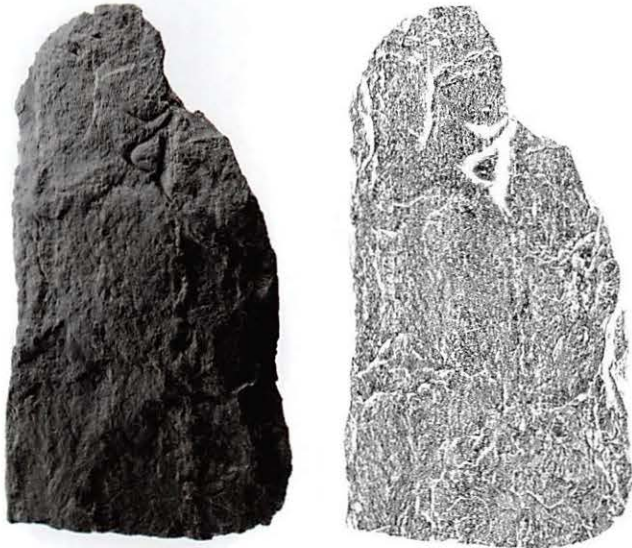


番号	九七六	年代	不明	石材	粘板岩(玄昌石系)
保存状況	一部破損				
法量	高三三・一	幅	二四・五	厚	二・五
種子	サク(勢至菩薩)				
種子法量	縦 五・四	横	五・〇	彫幅	一・二 彫深 〇・二
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。				
形状	・頭部整形、上端部敲打。・右側から下部にかけて剥離。				



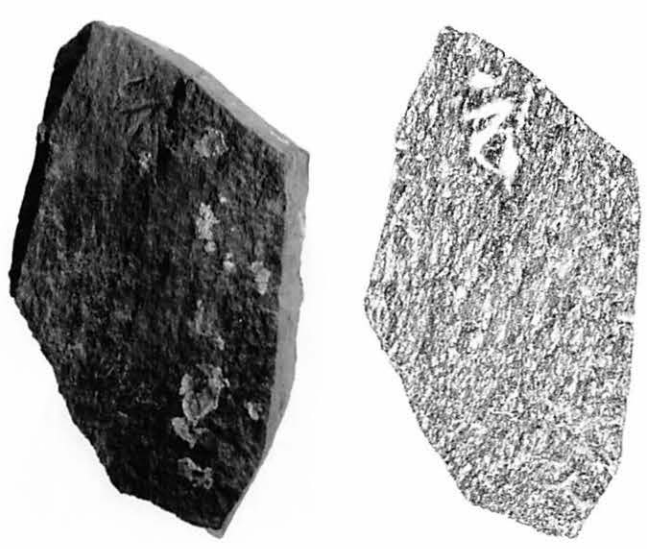
写真・拓本 20%

番号	九七八	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高 四七・七	幅	二五・五	厚	三・六
種子	バ(金剛薩埵)				
種子法量	縦 一〇・〇	横	三・九	彫幅	一・一 彫深 〇・二
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。				
形状	・頭部整形。・頭部右側、下部破損。				



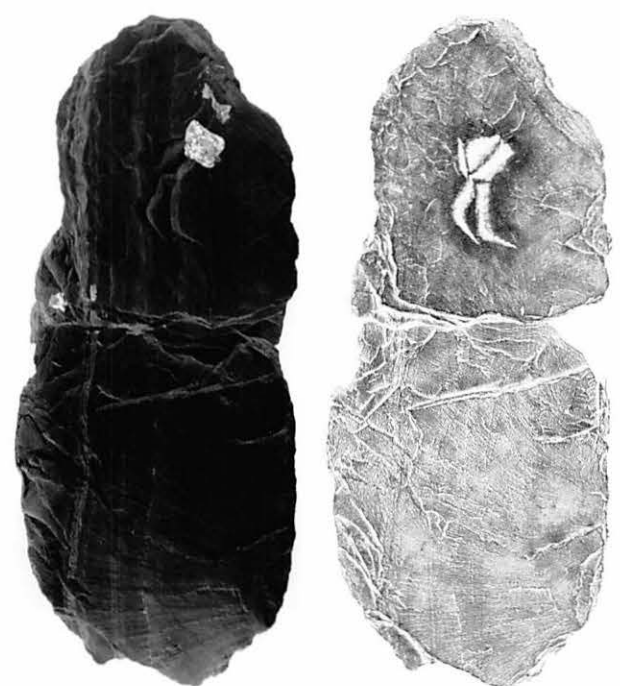
写真・拓本 15%

番号	九七九	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	完全				
法量	高三・五	幅	二三・四	厚	五・四
種子	パン(金剛界大日如来)				
種子法量	縦 八・九	横	五・二	彫幅	一・七
種子調法	葉研彫			彫深	〇・一
形状	・上端部節理面を利用。				



写真・拓本 20%

番号	九八一・九八四	年代	不明	石材	粘板岩(玄昌石系)
保存状況	一部破損				
法量	高 六一・五	幅	二五・二	厚	三・一
種子	バ(金剛薩唾)				
種子法量	縦 一〇・〇	横	六・一	彫幅	三・八
種子調法	葉研彫 平撃で底線に平行に彫り研磨。			彫深	〇・二
形状	・頭部、下部整形。・碑面研磨。・背面 頭部右側割り剥ぎ。				
備考	・上部(九八四)と下部(九八一)は海底の泥中において三・三メートル離れた地点から発見。中央部で二つに割られ、海底へ投棄された可能性が考えられる。				



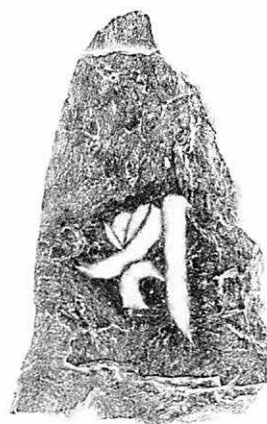
写真・拓本 15%

番号	九九二	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 一七・一 幅 八・七 厚 二・三		
種子	不明		
種子法量	縦 — 横 — 彫幅 一・六 彫深 〇・三		
種子調法	葉研彫 平整で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・種子の残画が確認される破片。・下部右側削り痕。		



写真・拓本 40%

番号	一〇〇六	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三六・二 幅 二二・五 厚 四・〇		
種子	サ(聖観音菩薩)		
種子法量	縦 一三・五 横 一〇・四 彫幅 二・〇 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平整で底線に平行に彫る。		
形状	・頭部整形。・下部破損。		



写真・拓本 15%

番号	一〇〇七	年代	不明	保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 六九・八	幅 二六・五	厚 四・七	種子	ウーン(愛染明王・馬頭観音・阿闍如来)	種子法量	縦 一五・二 横 七・四 彫幅 一・九 彫深 〇・一九
種子調法	葉研彫	平鑿で底線に直角に彫り研磨。					
形状	・頭部整形、剥離。 ・左側面、下端部節理面を利用。 ・種子の上部破損。	・頭部整形、剥離。 ・上部左側、下部右側削り削ぎ。					



写真・拓本 10%

番 号	一〇〇八	年 代	不 明	保 存 状 況	一部破損	石 材	粘板岩(玄昌石系)
	法 量				高 三八・〇 幅 二八・三 厚 二・八		
種 子	サ(聖観音菩薩)・サク(勢至菩薩)・カ(地藏菩薩)						
種 子 法 量	サ 縦 五・九 横 六・二 彫幅 〇・九 彫深 一・七	カ 縦 五・七 横 五・二 彫幅 〇・五 彫深 〇・三					
種 子 調 法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。						
形 状	・ 頭部破損。・ 悉曇サの下に鑿痕。						
備 考	・ 欠失した頭部には種子キリーク(阿弥陀如来)が刻まれていて、本来はキリーク・サ・サクの阿弥陀三尊に力が付加されていた形態であった可能性も考えられる。						



写真・拓本 15%


番号	一〇〇九	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩（井内石）
法量	高三・二 幅一七・七 厚三・八		
種子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）？		
種子法量	縦六・三 横六・六 彫幅〇・九 彫深〇・一		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・頭部、下部整形。・上端部、左側面割矧きか。		
備考	・井内石特有の縞状層理を斜めの状態にして板碑を製作。 ・種子は磨滅により判読しがたい。		

写真・拓本 20%

番号	一〇一〇	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩（井内石）
法量	高二八・一 幅二七・〇 厚二・〇		
種子	アン（普賢菩薩、無量寿如来）		
種子法量	縦一三・九 横一二・五 彫幅一・〇 彫深〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。・下部破損。		


写真・拓本 15%

番号	一〇一六	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高二・八	幅	二一・六
厚	四・三		
種子	夕(持世菩薩、檀波羅密菩薩)		
種子法量	縦七・二	横	六・四
彫幅	一・四		
彫深	〇・四七		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・上端部節理面を利用。・左右両側面敲打。・下部破損。		



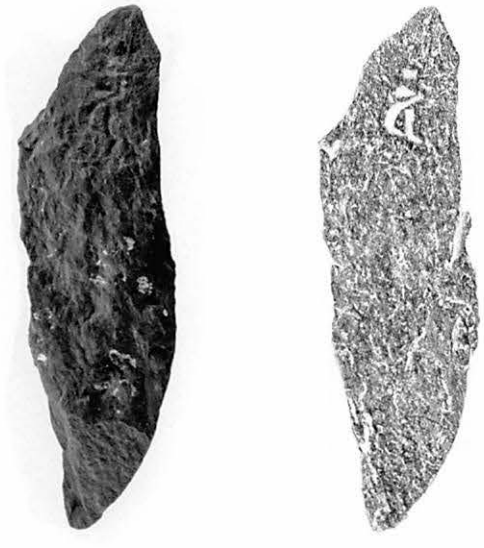
写真・拓本 20%

番号	一〇一七	年代	不明
保存状況	完全		
法量	高五・七	幅	一三・八
厚	三・二		
種子	バン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦七・〇	横	二・二
彫幅	〇・三		
彫深	〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部、下部整形。・背面 上部右側面に打撃痕の可能性。		



写真・拓本 15%

番 号	一〇一九	年代	不明
	保存状況 完全		
法 量	高 六九・六	石材	粘板岩（井内石）
	幅 一九・五		
種 子	厚 五・三		
	種 子 パン（金剛界大日如来）		
種 子 法 量	縦 九・一		
	横 五・三		
種 子 調 法	彫幅 一・六五		
	彫深 〇・三		
形 状	葉研彫		
	・頭部、下部整形（下部は左右から割り矧ぎ、尖らせる）。 ・背面右側面割り矧ぎ。種子の一部のみの破片。		





写真・拓本 10%

番 号	一〇二〇	年代	不明
	保存状況 完全		
法 量	高 三八・七	石材	粘板岩（井内石）
	幅 一四・五		
種 子	厚 二・一		
	種 子 ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）？		
種 子 法 量	縦 五・三		
	横 三・五		
種 子 調 法	彫幅 〇・九		
	彫深 〇・二		
形 状	葉研彫 研磨。		
	・頭部、下部整形（下部右側面割り矧ぎ）。 ・右側面上部敲打。		





写真・拓本 25%

番号	一〇二一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四九・八 幅 一九・〇 厚 三・三		
種子	不明 ※バ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)。		
種子法量	縦 五・七 横 三・五 彫幅 一・一 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部破損(種子法量は確認値)。・右側面敲打。・下部整形。		


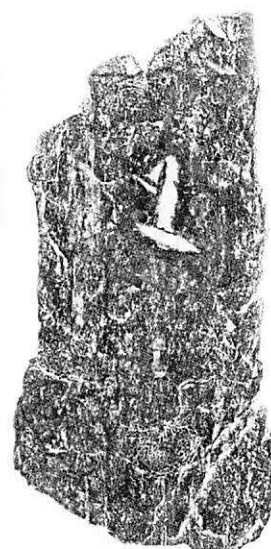
写真・拓本 15%

番号	一〇二三	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 三三・二 幅 一九・六 厚 二・〇		
種子	バン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦 一〇・四 横 二・八 彫幅 一・三 彫深 〇・二		
種子調法	葉研 研磨。		
形状	・頭部整形。・下部破損。		

写真・拓本 20%

番 号	一〇二五	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩（井内石）
法 量	高 三五・三 幅 一七・九 厚 三・五		
種 子	ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）		
種子法量	縦 六・九 横 四・九 彫幅 〇・五 彫深 〇・三		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。		
形 状	・下部整形。		

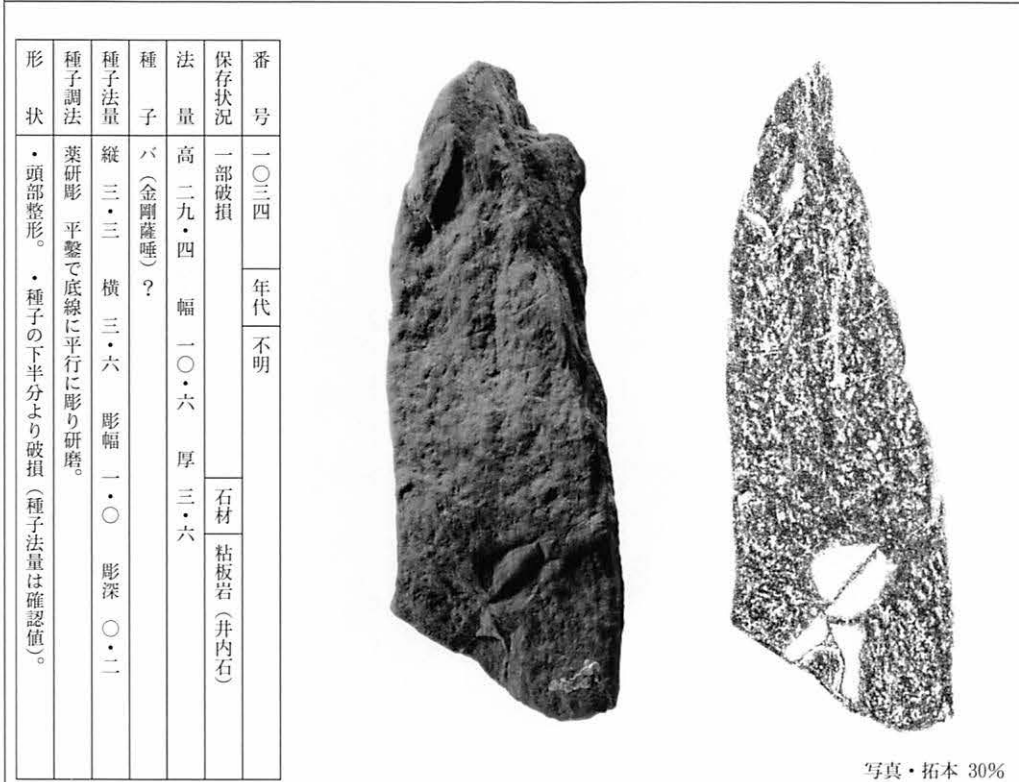
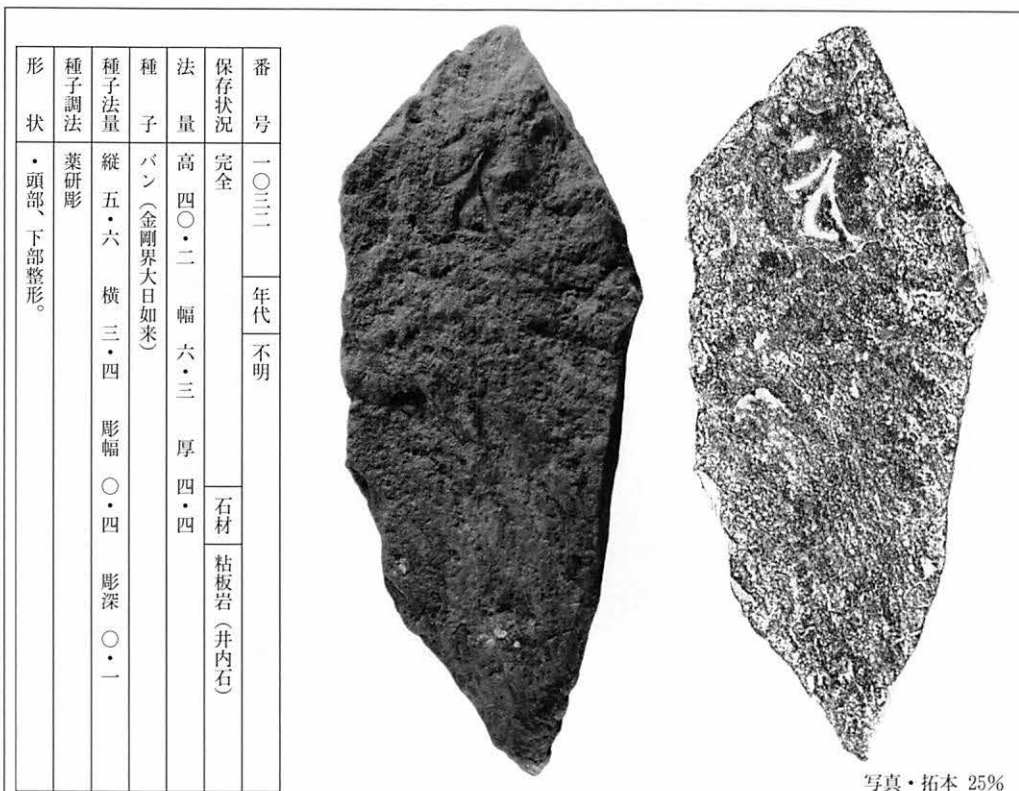



写真・拓本 20%

番 号	一〇二七	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩（玄昌石系）
法 量	高 三三・一 幅 一八・一 厚 四・四		
種 子	不明		
種子法量	縦 六・七 横 三・二 彫幅 一・五五 彫深 〇・二		
種子調法	葉研彫 研磨。		
形 状	・残画は種子の一部と考えられる（種子法量は確認値）。		




写真・拓本 30%



番号	一〇三八	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三〇・五	幅二三・三	厚二・七
種子	ナ(龍樹菩薩)		
種子法量	縦七・三	横六・〇	彫幅一・二 彫深〇・三
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・頭部整形。・左側面敲打。・下部破損。・背面 左側割り矧ぎ。		
備考	・井内石特有の縞状層理を斜めの状態にして板碑を製作。		

写真・拓本 20%

番号	一〇四〇	年代	不明
保存状況	完全		
法量	高三六・二	幅一〇・六	厚三・四
種子	不明		
種子法量	縦一・六	横一・五五	彫幅〇・七 彫深〇・〇八
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・頭部、下部整形。		
備考	・井内石特有の縞状層理を斜めの状態にして板碑を製作。		



写真・拓本 25%

番号	一〇四二	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高三〇・五 幅一四・五 厚三・八		
形状	・文字「白」が確認される板碑破片。		

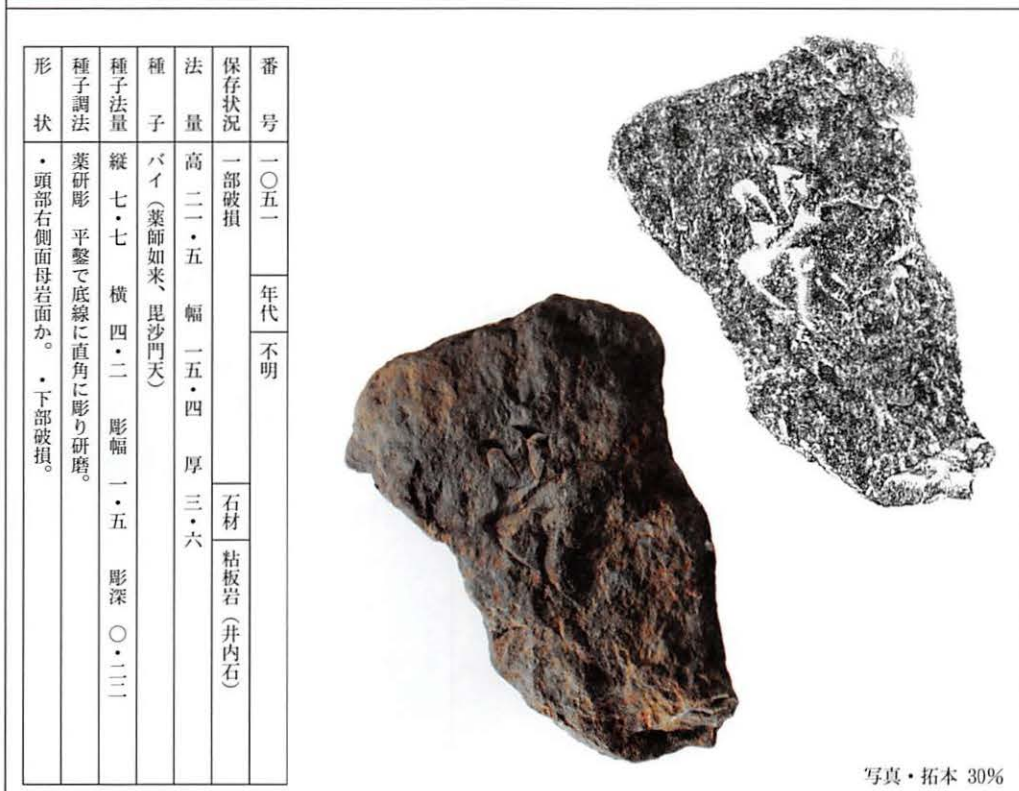



写真・拓本 25%

番号	一〇四六	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高四五・二 幅二八・〇 厚五・三		
種子法量	縦六・八 横四・三 彫幅一・〇 彫深〇・二		
種子調法	葉研彫		
形状	・右側面、下部破損。		

写真・拓本 15%

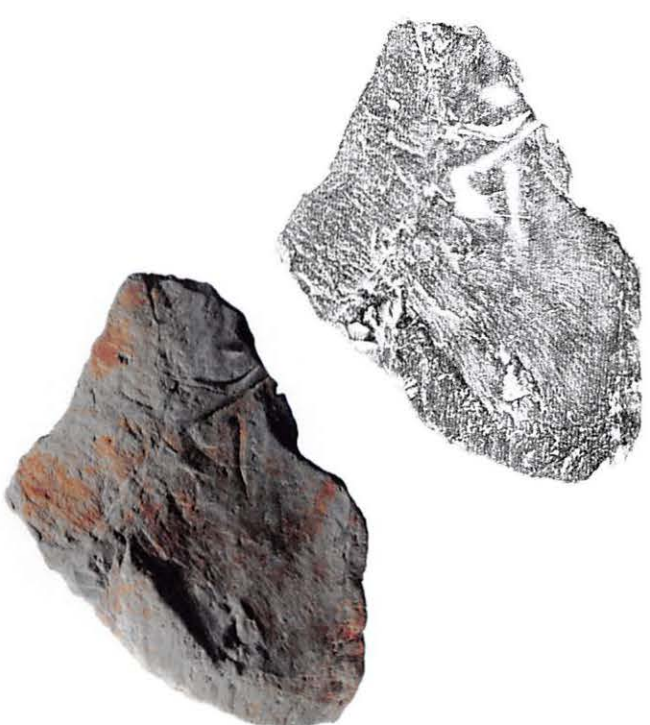


番号	一〇五三	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高二七・四	幅	一七・五
種子	パン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦 七・〇	横	二・三
種子調法	葉研彫 研磨。		
形状	・頭部整形。・頭部右側破損。・下部破損。		
石材	粘板岩(井内石)		



写真・拓本 25%

番号	一〇五六	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高一六・五	幅	一〇・五
種子	パン(金剛界大日如来)		
種子法量	縦 四・五	横	三・五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・種子の部分のみの破片。		
石材	粘板岩(井内石)		





写真・拓本 30%

番号	一〇六一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高三・六・五	幅	一〇・九
種子	パン(金剛界大日如来)	厚	四・八
種子法量	縦 一二・六	横	六・五
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。	彫幅	一・七
形状	・碑面平滑。・種子の一部のみの破片(種子法量は確認値)。	彫深	〇・三

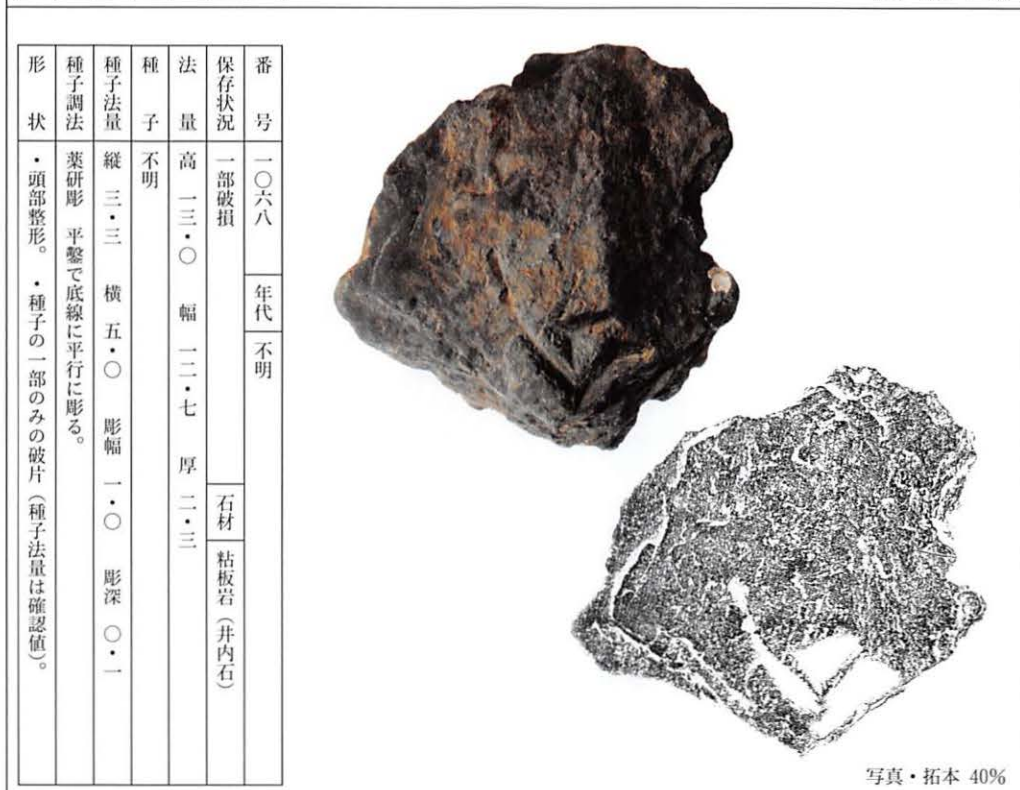
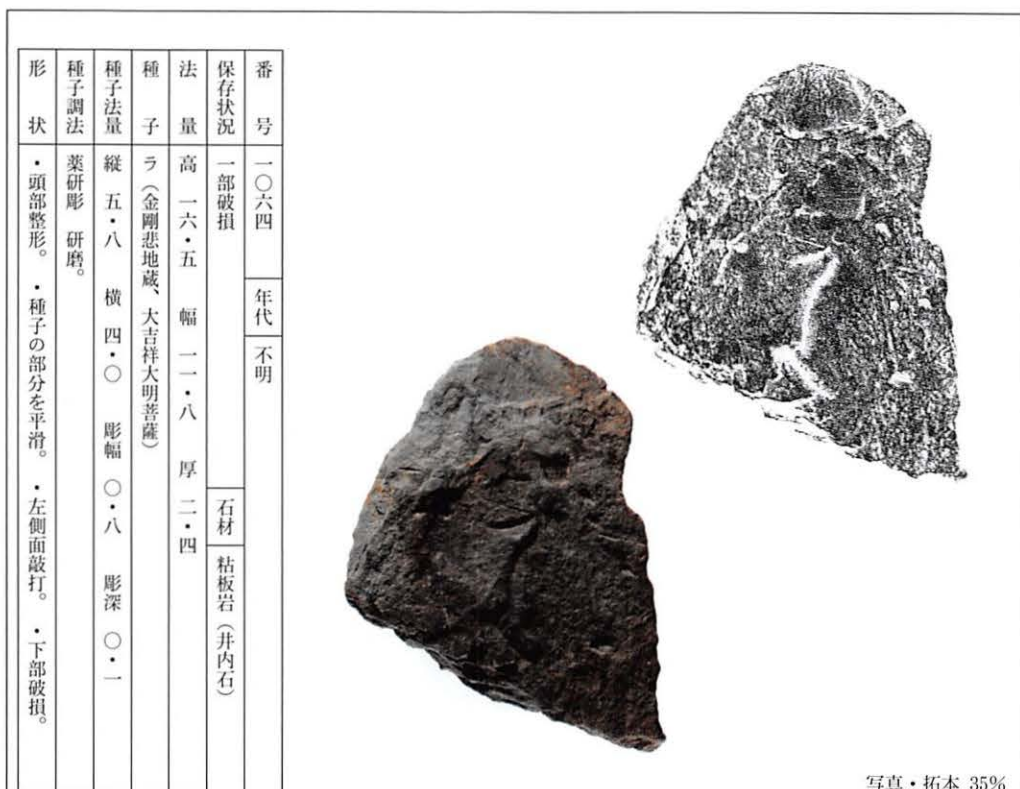



写真・拓本 25%

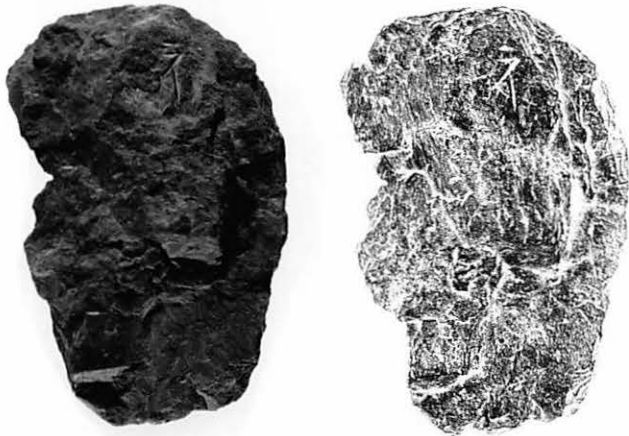
番号	一〇六二	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高一・八・五	幅	一二・五
種子	タラーク(虚空蔵菩薩)	厚	二・四
種子法量	縦 三・八	横	二・一
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫る。	彫幅	〇・七
形状	・種子の一部のみの破片(種子法量は確認値)。	彫深	〇・二

写真・拓本 40%

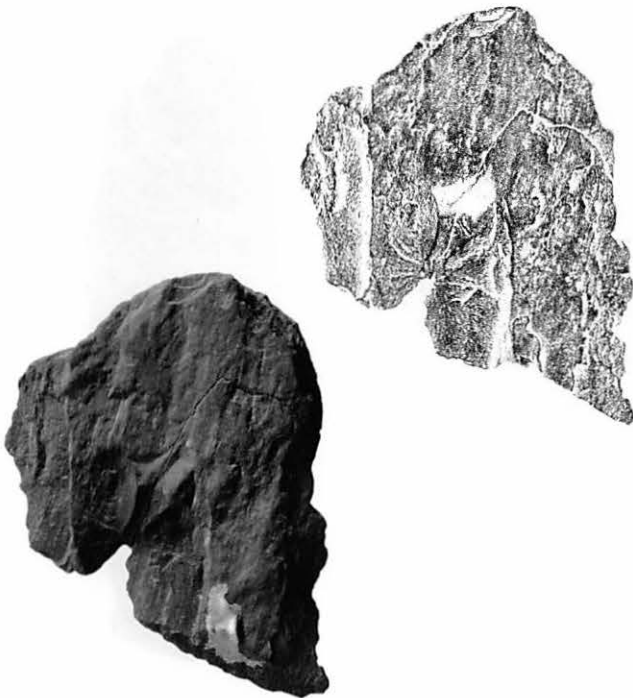


番号	一〇七〇	年代	不明
保存状況	完全	石材	粘板岩(井内石)
法量	高二七・九	幅	一八・二
種子	パン(金剛界大日如来)	厚	三・六
種子法量	縦 四・一	横	一・九
種子調法	葉研彫	彫幅	〇・四
形状	・頭部整形。 ・右側面敲打。	彫深	〇・一





写真・拓本 20%

番号	一〇七一	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高六・五	幅	一五・三
種子	不明	厚	二・〇
種子法量	縦 —	横	—
種子調法	葉研彫	彫幅	—
形状	・碑面平滑。 ・種子の一部のみの破片。	彫深	〇・一





写真・拓本 30%

番号	一〇七二	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	一部破損				
法量	高 四〇・〇 幅 二〇・一 厚 三・一				
種子	パン(金剛界大日如來)				
種子法量	縦 六・八 横 三・七 彫幅 一・〇 彫深 〇・一				
種子調法	葉研彫 研磨。				
形状	・頭部、下部整形。・頭部左側破損。・背面 左側割り矧きか。				
備考	・二つに割れていた石材を接合。				

写真・拓本 20%

番号	一〇七四	年代	不明	石材	粘板岩(井内石)
保存状況	完全				
法量	高 四二・一 幅 一三・〇 厚 三・七				
種子	パン(金剛界大日如來)				
種子法量	縦 五・五 横 一・六 彫幅 〇・六 彫深 〇・一				
種子調法	葉研彫				
形状	・頭部、下部整形。				

写真・拓本 20%

番号	一〇七六	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三・七	幅	一四・八
種子	厚 三・九		
種子法量	種子ラ（金剛悲地蔵、大吉祥大明菩薩）		
種子調法	縦 三・三	横 二・七	彫幅 〇・六
形状	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。 ・碑面平滑。・右側剥離。		




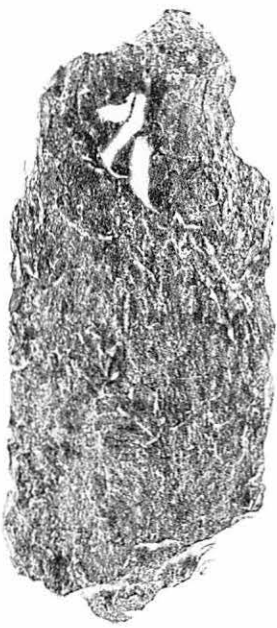
写真・拓本 25%

番号	一〇八八	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高二三・六	幅	一五・七
種子	厚 一・一		
種子法量	種子パン（金剛界大日如来）		
種子調法	縦 七・〇	横 二・八	彫幅 〇・七
形状	葉研彫 研磨。 ・頭部、下部破損。・種子の下五cmの位置に削り痕。 ・背面左側切断のための縦線に連続して削り痕が見える。		




写真・拓本 25%

番号	一〇八九	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 四〇・二 幅 一七・六 厚 三・〇		
種子	バ(金剛薩唾)		
種子法量	縦 八・二 横 三・二 彫幅 一・五 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
形状	・頭部、両側面整形。・頭部右側破損。		

写真・拓本 20%

番号	一〇九六	年代	不明
保存状況	一部破損	石材	粘板岩(井内石)
法量	高 一二・〇 幅 八・〇 厚 一・五		
種子	不明 ※バ(金剛薩唾)またはバン(金剛界大日如来)。		
種子法量	縦 四・六 横 一・九 彫幅 〇・七 彫深 〇・一		
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫る。		
形状	・周縁部整形。・種子の一部のみの破片(種子法量は確認値)。		

写真・拓本 50%

番 号	一〇九七	年代	不明
保存 状況	一部破損	石材	粘板岩(井内包) ※川原石状
法 量	高 二六・三 幅 一九・一 厚 五・一		
種 子	カ(地藏菩薩)?		
種子 法量	縦 三・八 横 二・四 彫幅 〇・四 彫深 —		
種子 調法	漆に金箔をはる。		
形 状	・下部破損か。		





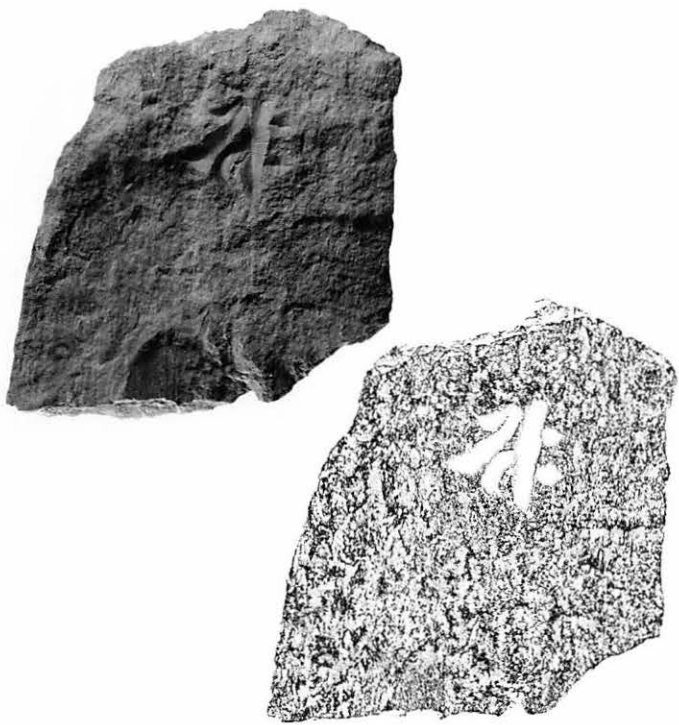
写真 35%

番 号	一一〇三	年代	不明
保存 状況	完全損	石材	粘板岩(井内石)
法 量	高 二一・三 幅 一五・五 厚 二・一		
種 子	ナ(龍樹菩薩)?		
種子 法量	縦 五・四 横 三・七 彫幅 一・〇 彫深 〇・一		
種子 調法	葉研彫		
形 状	・周縁部整形。		



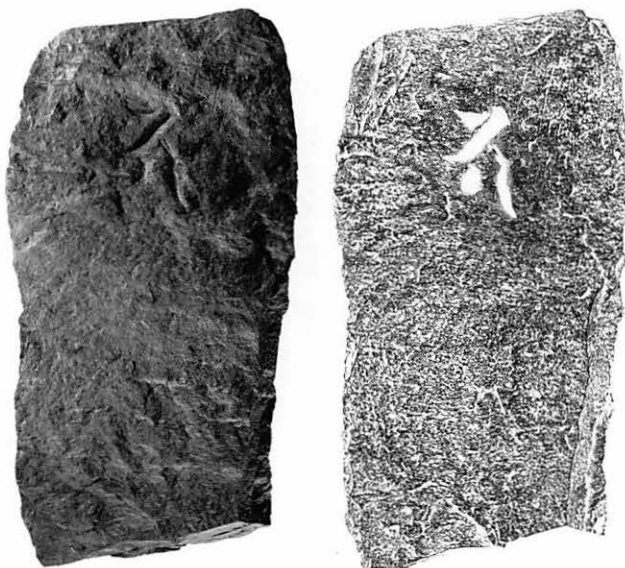
写真・拓本 25%

番号	一一〇五	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高二八・〇	幅	二五・一
種子	サク(勢至菩薩)	厚	四・〇
種子法量	縦 七・〇	横	七・二
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。		
形状	・頭部、左側面整形。・右側面、下部破損。		



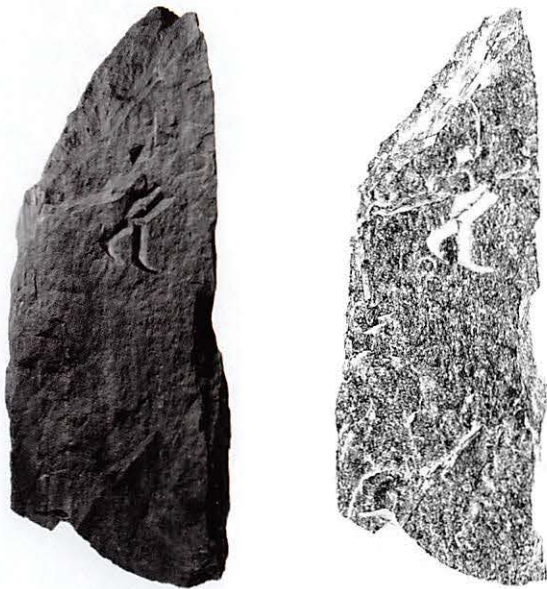
写真・拓本 20%

番号	一一〇六	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高三六・八	幅	一九・七
種子	ナ(龍樹菩薩)	厚	三・七
種子法量	縦 七・五	横	五・六
種子調法	葉研彫 平鑿で底線に平行に彫り研磨。		
備考	・井内石特有の縞状層理を横にして板碑を製作。		



写真・拓本 20%

番号	一一〇七	年代	不明
保存状況	一部破損		
法量	高 五一・八	幅 二〇・〇	厚 四・五
種子	バン（金剛界大日如来）		
種子法量	縦 一〇・九	横 五・九	彫幅 一・三
種子調法	彫深 〇・二		
形状	・周縁部整形。・頭部剥離。・下部破損。		



写真・拓本 15%



写真 2 雄島海底板碑群の調査風景（2008年 7 月19日撮影）



右塔婆志趣者為百ヶ日

(キリク)

曆応四年 辛巳 六月廿七日

敬白

施主

智性禪門出火宅法界利益故也

番号	年代	保存状況	法量	種子	種子法量	種子調法	形状	備考
一一〇八	曆応四年(一二三四)	一部破損	高 七〇・〇 幅 二七・五 厚 五・八	キリク(阿弥陀如来)	縦 一三・二 横 一〇・一 彫幅 二・二 彫深 〇・一七	葉研彫 平鑿で底線に直角に彫り研磨。	・上端部、下端部敲打。 ・下部右側面破損か。 ・背面 左側中央部、下部割り矧ぎ。	・莊嚴月輪、蓮座。 ・種子キリクは蓮座と一体化するようなデザイン。 ・願文を開うように碑面下部に横線一本、碑面左端に縦線一本。
南北朝時代(北朝年号)		石材 粘板岩(井内石)						

写真・拓本 15%